

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M・O・H communication

25号

2009

Autumn



6周年感謝

特集:めばえ「環境産業」



Vol.25

2009 Autumn

contents

目次

6周年感謝

特集「めばえ」——環境産業

M・O・H対談——人間の力の及ばないものが世界の美しさを支えている

妖精を描く——永田 萌 & 森 建司……5

寄稿

森孝之著「エコトピアだより」の出版に寄せて 内藤 正明……15

M・O・Hレポート——1

びわ湖のプレゼンター「観光船」の今 中井 保……21

M・O・Hレポート——2 M・O・H通信執筆者が行く

びわ湖の宝発見ツアー……29

シヨート・シヨート

ふれあい 第15回『捨てきれない荷物』 中井 二三雄……36

寄稿

びわ湖は文化の宝庫 受け継ぎ・誇り・活用を！ 木戸 雅寿……37

M・O・Hレポート——3 比良の里山イベントレポート

里山を感じ、知る……38

寄稿

幸津川発信！アートのめばえ 川本 哲慎……41

M・O・Hレポート——4 楽しく美しく美味しく美味しく堆肥づくりを

ひろがる循環型生活……45

表紙写真

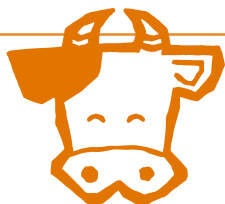
辻 耕司

磯(米原市)の大根洗い風景。冬になると湖岸に竹を組み、大根を干す



伊吹山山頂

読者の声・せんりゅう	74	「絆」畑裕子	57	「幻のヒメボタルに出逢う旅」	61	「清く正しく美しく」今関信子	67	「雪が与えた林へのダメージ」(漫画)	49
通信概要	73	愛する風景		イベント紹介	65	講演日記	69	「自分づくりに挑戦しよう」その二	53
本の紹介	72	MOHECOTOURISM	12	心温まる物語		お知らせ	70	日本の精神	
「伊吹ポタル」	三山元暎	ジオパークへの招待	檀上俊雄	「清く正しく美しく」	今関信子	里のお話		〈商家の家訓の話 第10回〉	
	71	環人会ツアーVol.9	伊吹山夜間登山2009			「伊吹ポタル」	三山元暎	近代経営への芽生え	近江商人の妻の役割
			61					末永國紀	55
								井上昌幸	53
								オノミユキ	49
								戦国に生きた三姉妹	佐々木洋一
								ちよつとひといき	47



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★M・O・H通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

M	→もったいない	循環	他の生命を奪って得たものを使わせて頂く
O	→おかげさま	共生	人は一人では生きられない環境によって生かされている
H	→ほどほどに	抑制	欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために



め

ぼ

え

■めばえ — 「環境産業」

私たちは百年に一度と言われる世界的不況の対応策の中から、人類の未来に欠かせない持続可能型社会形成に大きなヒントを受け取りつつあるようだ。

経済の限らない拡大が、資源潤渇や、地球温暖化など取り返しの付かない事態を引き起こしているときに、二十世紀型経済社会の歪をまざまざと見せ付けて、気付かせてくれたのである。

保守的で怠惰な、世の（人類の）指導者たちも、激震が各地に同時多発で起こり、どうやら原因は一点に集約されそうな気配に気付かざるを得なくなった。前世紀は人口の爆発的な増加があり、経済に関する数値は未曾有に拡大した。その反面、それを支えてきた地球の資源の枯渇や汚染問題が生じたことは言うまでも無いが、今では生物多様性にまで危機が及んでいると言われている。限られた地域であるにせよ、二次産

新しい価値観の 「めばえ」

森 建司

業の生産性向上はとどまることなく、有り余る物質的な豊かさをもたらした。一次産業にしても人類が必要とする生物、物質以外は排除し、豊満、飽食の生活習慣をつくってきた。

そして求め続けた理想社会の実現した結果がこの有様である。人々が飢えと貧困に苦しむ事態は避けなければならぬが、自然の恩恵や、汗をかいて働く人々の「おかげ」を蒙って穏やかな日常を送れるものにとって、これ以上の欲望は抑制されなければならぬ。この地球の限られた資源や自然の中に共生していくために、「もつたいない、おかげさま、ほどほどに」の倫理を基にして、循環型社会の価値観に新しく転換していかなければならないのだ。漸くにしてその新しい価値観の「めばえ」を感じる今日この頃である、と言いたいのだが……



●対談

永田 萌 vs

森 建司

絵本作家・イラストレーター

循環型社会システム研究所 代表

〈めばえ「環境産業」—①〉

妖精を描く —

人間の力の及ばないものが世界の美しさを支えている

やわらかく明るい色彩のイラストが印象的な永田萌さんの作品の多くは妖精がモチーフになっています。妖精にこめた思いとは、妖精の世界が育まれた時間とは、絵本作家・イラストレーターの永田萌さんにお話を伺いました。

自身の作品を日用品へと商品化していくことで、わたしたちに新たなメッセージを伝えてくれます。

■ギャラリー妖精村(京都市中京区)

■2009年6月29日

ただ描いていることが
幸せだった

森 先生は元は会社員だったんですね。

永田 会社を辞めたのが26歳の春でした。27歳までの一年間は収入がまったくなくて時間だけがありました。どこへ持つていくあてもないのに毎日一枚以上の絵を描いていました。

今まで描けなかった時間を取り戻したいというのが会社を辞めた理由でしたから、描いていることが楽しかった。朝、描き始めて「なんかお腹減ったな」と外を見ると真つ暗になっている。とても充実した日々でした。

森 そんなに次々と描きたいことが出てくるものなのですか？

永田 あの頃は出てきました。描きたいことが山ほどあったんでしょね。

会社員生活は収入は安定していましたが、自分のしたいことができない不満を抱えていました。26歳ぎりぎりの決断でした。したいことをする人生を、明日をも分らない生き方をすると決めました。

当時の絵は、現在ギャラリーに展示されています。絵の前に立つとその頃のことを思い出します。

妖精が生まれた場所

森 先生の作品には、妖精が出てきますが、そこに至った経緯を教えてください。

永田 生まれ育った環境に影響を受けています。私は兵庫県の内陸山間小さな村で生まれ育ちました。播磨風土記の地で、小高い丘はみな古墳で、自然が溢れ、昔話や伝説、神話などがたくさんある土地です。

幼いときから、お年寄りの人たちの生活がありました。暮らしの中にさまざまな言い伝えがあり、超自然的な世界を指すことが多かった。言葉としては、お化けや神様に置き換えられます。

自然の中にひそむ目に見えないものを敬う心を、お祭りや家の年中行事を通して教えられました。屋根には屋根の神様が居て、井戸には井戸の神様が居て、田んぼには田んぼの神様が居る。

森 ロマンティックですね。

永田 素朴な時代でした。日が暮れると真つ暗になります。そういう闇に何か潜んでいるような気が自然としてきます。

母は花作りの好きな人でした。気候も温暖な土地で一年中花が咲いています。「花はなんのために咲くのか」とよく母と話していました。アンデルセンの親指姫など御伽噺では妖精がいて花を守っています。そんなお話しを母が聞かせてくれたり、読んでくれたりしました。日本的な精霊の世界と西洋的な妖精の世界がミックスされた世界がすんなりが入ってくる性格をしていました。全てのオリジナルは幼い頃にあります。

森 精霊や妖精の世界と現実の世界が両立していたのですか？

永田 想像の世界と現実の世界が入り混じっていました。よくボーとしていた子だったと言われます。たとえば座敷に座って空を三十分でも一時間でも見ている。親から「何をしているの?」と尋ねられると「今、お空の神様と話してる」と答えるような子どもでした。



□ 妖精を育んだ時間

永田 この年齢になつてよく分かります

親が過剰に心配しなかつたのが今の私につながっています。
森 親御さん自身がそういう感性を持つておられたのですね。

ですが、両親は子供の特性を守つて教育をしてくれました。
私の父はこの2月に亡くなりましたが、面白い人でした。兼業農家の長男で、農業のほかに小学校の美術の教師をしていました。
子供の頃、葛谷喜一さんのぬり絵が爆発的に女の子の間で流行りました。

薄い粗末な紙でできていました。同級生が持っている、欲しくて欲しくてたまらない。

親は本を読む分には好きだけ本を買つてくれましたので、当然ぬり絵も買つてくれるものだと思つていました。本の形をしていますからね。

ところが、断固として、特に父がぬり絵はだめだといいます。「どうして？」と尋ねると父は言いました。

「ぬり絵は想像力を育てない」

限られた線の中をきちつと塗ることになんの想像力もない。それなら本を読めと。私は「想像力など要らないからぬり絵がほしい」と泣きました。しばらくすると両親が話し合つたのでしよう。おかしなことを言いました。

「これからは家の中のどこに落書きをしてもいい」

3人兄弟の弟も妹も絵を描くのが好きでした。普段は、チラシの裏や新聞の余白などに描いていたのですが、突然、壁に大きな模造紙が貼られました。

目の前がパーと開けました。ぬり絵のことは忘れてしまいました。ちまちま

〈めばえ—①〉

塗っているよりも壁に描いたほうが楽しいですね。
森 それが永田先生を育てられた基礎なんです。
うちは近江商人ですから、金・金・金で「銭がないのは首がないのと一緒に」「銭は入れても出したらあかん」などと言われたものです。



ギャラリー妖精村にて。オリジナルイラストに囲まれて

「財布を見せてみる」と言われて見せて、お札がさかさまに入っていたり折れていたりするとえらく怒られます。お札にアイロンを当てていましたから
永田 人間味があつてよろしいじゃないですか。人生の哲学ですもの。すばらしいことだと思います。

□妖精を描くといふこと

森 妖精をモチーフに描き続けておられますが、妖精を通してどんなことを描こうとされていますか？

永田 人間の力の及ばないものが、世界の美しいものの大部分を支えているのではないかという気が漠然としていました。

妖精は、希望や愛、夢といった言葉の象徴です。人間の形をした、しかし人間ではない羽を持った超自然的な存在は抽象的な言葉と合わせやすいのです。森 妖精をモチーフにしながら、自然の中のものが共に生きている世界観を描いておられますね。持続可能な社会の理念と通じるものがあるように思います。

ところで、絵本などは子供向けでしょうけれど、イラストなどは大人のファンも多いのではないですか？

永田 最初は子供のための画家としてスタートしたのですが、ご依頼の中にはステップを踏まなければならない難しいものもありました。

5年くらい前に京都新聞にエッセイと絵の連載を始めました。『ふりむけば花の香り』『花ときどき風』（いずれも東京書籍）として出版されています。

編集長が依頼にみえたときに「新聞というのはいたい、お父さんが読んで、子供たちも読んでお母さんも読む。それから、朝刊というのは夕方も読まれる」とおっしゃいました。世代が幅広いこと、朝読んでも昼読んでも夜読んでも面白いものをという依頼でした。

男性が読むものというのは、最初はプレッシャーでした。女の子の心を持った大人の女性が読むものは自然の延長線上だったのですが、果たしてこういうものを男性が理解してくれるかと。新聞連載で初めて私の絵とエッセイを見たという男性の方がたくさんいらっしゃいました。そのことから、子供、女性だけではなく、広く色々な方に理解してもらえる絵を描きたいと思うようになりました。



「1日1枚描いています」永田先生

幸せとは——半日景色のいいところに座っている喜び

森 先日滋賀県の作家畑裕子さんの著書『天上の鼓』（サンライズ出版）の出版記念会に招かれました。テーマは老人問題です。老人がどんな風に夢や希望を持って生きていきたいのか、子供たちとの接触の中で非常に感動的に描いておられました。

老人には年金さえあればいいだろう、ということではなく、老人にも夢が必要だと思います。もちろん、若い方でも自殺される方がいらっしやいます。どこに生きがいを持って希望を抱いて生きていくのか、

これは難しい課題です。

永田 教育に大きく関わることでですね。読み書きそろばんは教育の基礎ですが、それと同時に、人は何のために生きていくのか、何のために命があるのかという哲学を子供の頃に教えていませぬ。年齢に関わらず希望があれば死にたくもなるでしょう。

しかし世の中というのは物質だけで構成されているわけではありませんが、幸せをそういうものだけに求めなくてもいいのです。絵を見て感じる心、自然を見て感じる心、半日景色のいいところに座っていることに喜びを感じられる心があれば、お金がなくても幸せはきつと実感できます。

モデルになるケースはお金持ちとか名声を得た人とか賞を取った人とかばかりを示そうとする。しかし大半の間はそんな存在ではありません。

普通の人の普通の幸せとは何か、生きがいとは何か。

もつと本を読まなければならぬし、もつと広い世界観を持つことです。

学校で生徒と話しをします。ふと

「永田先生みたいになれたらいいな」と言うんです。「永田先生みたいに」という条件を聞くと、「本が何冊も出ている」とか「とりあえず仕事がある」とかいうこともありすが、「大人になっても楽しそうだ」と。

「本当にうちのお母さんと同じ年ですか？」と言われて

「ああ、モデルが少ないんだ」と気づきました。昔は変わり者のヘンな大人がたくさん居ましたよね。大人でも面白い人が居る、自由な発想をして世の中を楽しんでいる人が居ることを示せたい。

森 現在日本では、将来、経済社会で役立つような科学技術分野の人を育てて経済発展を通じて日本の国を発展させようと経団連のトップなどが政治に非常に大きな影響力を持っている。作家や芸術家にも、もつと発言する機会があればいいのにそういう人を排除してしまいがちです。

永田 学歴とか職歴とか、眼で



「文系のセンスを重用すべき」森代表

見てすぐ理解できることで人の価値を測ろうとする。しかし私たちのような職種というのは数字で置き換えられません。そういうところに価値を置くと自分たちに欠けているものが見えてくるので恐怖を感じて排除するのもかもしれません。

□企業人間はかくして作られる

森 たとえば、会社は徹底して社員を会社人間に育てようとしています。他のことに気をとられてはいけない、新入社員には、中堅社員はかくあるべしと教育していく。知っていることは会社の

ことだけなのに、本人はそれが世界の全てだと思ひ込む。そうして、定年になつてぼつと会社から外へ出たら、全く世界が違ふので対応できないのです。老人会へ行つても話が合わない、自治会や近所の商店街の人とも話が合わない。孤独になつていく。

そうならないためには、いかに今までの価値観を壊して新しい価値観に切り替えていくか。余生を上手に生きるヒントはそこにあります。

永田 私も企業人でしたが、会社が一番大事という気持ちにはなりませんでした。

森 組織に乗ろうとしない人つて、いますね。ところで、会社は社長以上の会社にはならないという言葉をご存知ですか。

永田 おもしろい言葉ですね。

森 私は、社内には私以上の人間がたくさん居るので、その人たちが仕事をしていけば私以上の会社ができるかもしれないと思いますが、それでは都合が悪いという社員もいますから、部署を



赤ちゃんの食器に妖精イラスト。おいしく召し上がれオリジナルグッズ第1号でロングセラー商品。プレゼントに最適

作って権限を与えてやらざるを得ない。型通りやっているのが優秀で、型を破る奴はけしからんという。型を破る者がおつてこそ会社は伸びるのですが。そういう社会で働いて、出張や残業、海外駐在や転勤などで家を開けていて、その人が家に帰ってきたときどうなるのかというのは心配です。

永田 語り合う相手がいらない後半の人生は、すごくさみしいと思います。

夫婦で海外旅行に行かれても、ご主人の方に好奇心がない。奥さんの方はいろいろと歴史などを調べて来ているのですが。男の人は「日本がいい」という話にすぐなります。「それならお父さんこんなところに来なければいいの

に」と奥さんが怒っている。森 熟年離婚などはそういうことがあるのかもしれない。長年離れて暮らしていたら上手くいっていただけ、いざ一緒に住んでみると話すことがない。

永田 子供が中学高校大学と一番お金がかかるとき、もし

お父さんが働いていなければ、とても家庭は成り立っていかなかったと思います。お父さんは自分が楽しんだり、本を読む時間もなく、わき目もふらずに家族のために働いてこられた。働いてきたお父さんの結果なのです。奥さんの方もその辺りを理解してあげないと。ところで、私は20歳年下と20歳年上の親友を持つことをモットーにしています。20歳上の方はみなさん立派な方で親友と呼ぶのはおこがましいのですが、師弟関係ではなく、私を友達と認めて付き合ってください。

一方20歳年下の友人は、彼女・彼らのお母さんと私は同い年ですが親子の関係ではなく友達です。

60代になると80代の友達が大きな希望なのです。80代になってもその人らしさを損なうことなく、現役をリタイアしてもまだ生き生きと个性的に暮らしておられる。いい老人の顔になっていく20歳上の男女とものお友達を見ると、年をとるのはいいことだな、と思います。森さんもとてもお美しい。

若い人にとつても、年をとるついでいなと思えるような方がいらつしやると希望がわきます。

森 先生の生き方などをお聞きしていると、金持ちになるといふ価値観とは違った価値観をお持ちですね。

永田 同世代、共に戦ってきた戦士ですから残りの時間が幸せの時間でないのは不公平です。私のような生き方や仕事の仕方を誰かが希望の支えにしてくれるのはありがたいことです。

□ 夫婦

森 先生はご家庭をお持ちですが、家庭と仕事の両立は大変だったでしょう。

永田 振り返ってみると子育ての期間は



額入りの妖精たち。部屋を飾ります

夫の協力なしにはありえなかったです。

夫は在宅で仕事をしています。

私は当時、会社に勤めていましたので、通勤途中で保育園へ子供を連れて行き、帰りは間に合えば連れて帰る。そうでなければ夫が迎えに行くという形でした。子供が熱を出しても家に居る限りは夫が見てくれます。核家族でも、夫に家庭力があつたのは大変幸せでした。

私たちは遅くに結婚しましたので、それぞれの仕事の世界が確立していました。仕事に関してはお互いに関わらない、聞いたり批評したりはしない

「これどう思う」とか「これ読んでみて」などと求めることはありますが、たいてい後で喧嘩になります。基本的には互いのやりたいことを尊重する。夫が半年間くらい海外へ行っても私は子供を片手に抱きながら仕事をしていまし



書棚のアクセントにいかが？

たし、逆もあります。一人で居ても気楽で幸せな者同士が会って、二人になつて不自由になることは意味のないことです。よくもつたなとわれないが思いますが。

森 旦那さんは一番永田先生の絵をご覧になっておられる？

永田 夫はほとんど見ていません。私は夫の絵の熱烈なファンだったので、会う何年も前から彼の作品が好きで、こういう本作りがしたいと、イラストレーションから出版の世界に方向を変えました。

夫が最初に作った本が非常にセンターショナルで、若いイラストレーター間の間でも話題になっていました。

「こんな外国の作家だからできるんだよ」と言っていたら日本人だったのでびっくりした。海外で描いたものを日本で出版したため最初は英語版でした。私は最初から夫を尊敬するアーティストとしてスタートしました。

一方、夫は自分の絵のファンである私からスタートしています。日本で私がしているポピュラーな仕事のことを全く知らず、いい意味で本質的なところだけから始まっています。

私の忙しい日常も彼にとつては遠い世界です。朝、ばたばたと家を出ますが「気をつけて、転ぶんじゃないよ」と言ってくれるだけで、出て行ったら静かに創作活動にいそしんでいるのではないのでしょうか。

□現在の取り組み

永田 去年の8月まで、兵庫県の教育委員を2期8年勤めました。政治の勉強をさせていただき、絵描きをしていただけでは出会えない素敵な方と知り合うことができました。しかし、忙しくて

最後の一年間はまったく絵の仕事ができませんでした。もしあれをあと2、3年続けていては絵の仕事に戻れなかったかもしれません。

これ以上延ばすと永田萌の絵描きとしての社会的生命は無なくなるといところまで追い詰められて、ようやくこの春頃から描き始めました。ここ2ヶ月くらいは毎日描いています。一日一枚のペースで描かないと間に合いません。描いても、描いても先が見えないくらい描かなければならない。

ふと26歳で会社を辞めた一年間、毎日ただただ絵を描いていた日々のことを思い出します。

今取り組んでいるのは、120ページの旧約聖書と新約聖書絵本です。キリス常に影響を与えています。教義を教えるのではなく、人類の財産としての聖書を日本の子供たちに伝えるというものです。

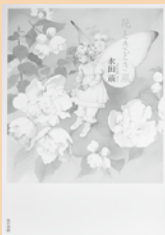
永田萌の原点

■もえと妖精たち



- 企画構成 / 妖精村
- 発行 / 世界文化社
- 価格 / 2100円
- 内容 / 著者が自費出版した初めての画集の完全復刻で第八版を重ねるベストセラー。幸せな夢を妖精たちが運んでくれますよ……。

■花ときどき風



- 発行 / 東京書籍
- 価格 / 1890円
- 内容 / 京都新聞の連載をまとめた最新刊で68編が楽しめる。男性読者を意識した、最新刊。見ごたえ・読みごたえたっぷり。
- ユカの花ものがたり
- 発行 / 小学館
- 価格 / 1680円
- 内容 / 自然との共生を考える絵本。たすけあう植物と動物たちを、河合雅雄氏の詩と永田萌氏の絵で表現している。淡路花博ジャパンフロア記念出版。

そんなわけで、今はひげをはやした瘦せたおじさんばかり描いています。

西欧の人と接して、どうしても分かんないところがありますが、聖書を読むと分かる気がします。何か特定の宗教を信仰している人以外の、日本人の多くは、気楽な神様があちこちにいるという感覚ですが、キリスト教徒の場合は頭の真上の高い所に神様が居て、まっすぐに見おろしている、という感覚なのだそうです。

だから、どうしようもなくなつたときに天を仰ぐ。空を見上げることができると。

森 なるほど、欧米と日本で信仰の対象がちがうと、人生観もちがってくるのですね。おもしろい発見です。

永田先生、本日は妖精グッズに囲まれて、いろいろどりのお話をいただきました。ありがとうございました。



夢みこ心
いつまでも
永田萌
Noel
2009.6.29

●ながた もえ 兵庫県生まれ。絵本作家・イラストレーター。デザイン会社、出版社製菓会社でグラフィックデザイナーとして勤務した後、1975年にイラストレーターとして独立。「カライインクの魔術師」と呼ばれる技術と色彩感覚、花と妖精をテーマにした夢あふれる作風で親しまれる。絵本、画集、エッセイなど出版物は130冊を

超える。1987年『花待月に』（偕成社）でポロニーヤ国際児童図書展青少年部グラフィック賞を受賞。日本郵便発行の切手の制作や行政・教育関連の委員会にも携わっている。現在株 妖精村を拠点に活動中。

●ギャラリー妖精村

定休日/月曜（祝日の場合営業）、年末年始
開店時間/午前10時〜午後6時
〒604-8182
京都市中京区堺町通三条上る フォルム洛
中庵一階

TEL. 075(2)56)5033
FAX. 075(2)56)5032
E-mail:shop@yohseimura.co.jp
http://www.yohseimura.co.jp

勇を気源
いの壁を打ち破れ
森 建司

●もり けんじ 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など。著書/『吃音はなある』『遊タイム出版』『循環型社会入門』『新風舎』『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版。

寄稿

〈めばえ「環境産業」—②〉

森 孝之 著

『エコトピアだより』の 出版に寄せて

内藤 正明



左から内藤正明著『エコトピア』絶版、
『エコトピアだより』森孝之著、
『ECOTOPIA』アーネスト・カレンバック著

ECOを冠する造語が増加しています。エコライフ、エコハウス、エコ給湯、エコ家電、エコカー、エコバック、エコ村、エコホテル、エコマネー、エコタウン……。元祖は「エコトピア」です。34年前にアメリカから発信されました。エコトピアはエコタウンより大きな概念で、国のあり方を示しています。今、日本でも「エコトピア」に注目が集まっています。さわりだけ、紐解いてみましょうか？

ある言葉を最初に作ったのは誰かという先陣争いが時々されるが、それを明らかにするのは難しい。ある時代状況の下では、同じような言葉が発案されるから、誰もが自分こそ言い出したのだと思うのだろう。ところで、「エコトピア」という言葉も最近のエコトピアの中でしばしば使われるようになってきたが、この言葉も誰が最初に言い出したかを特定するのは難しくだろう。

しかし、世界中に広めた人物というならば、それはアメリカの高名な作家「Ernest Callenbach」（アーネスト・カレンバック）さんであろう。彼の『みどりの国エコトピア（日本語訳）』上下2巻は、1975年に出版されるや、世界中に翻訳されて広く読まれた。日本にもそのファンクラブがあるくらいである。

「エコトピア」という名前を冠した著書について、このカレンバックさんの著書を第一号とすると、第二号は実は小生が1994年に出した『エコトピア』

という本ではないかと思う。これは世界的ベストセラーの第一号とは対照的に、3,000部印刷されたがその殆どが売れ残ったはずである。最近になつてようやく、「いままされている議論は、ほとんどあれに書いてあるね」と言ってくれる人もいて、あの本の残部がないかとの問い合わせがくるようになったが、時すでに遅しである。

第三号のエコトピア本は、まさに今年出版された森孝之氏の『エコトピアだより』である。これが先の二冊と違うとすれば、まず実践の書ということである。森夫妻が40年かけて創り上げられた自宅1000坪のエコガーデンが物語の中心である。さらにそれを基盤に営んでこられたエコ生活の物語は、他に例のないものである。それはエコライフの楽しさとそのノウハウを著しながら、その裏には著者の長年の持論であり、かつもう一冊の著書である「これからの生き方」を身をもって体現された実践の記録である。人類が真つ当に生きるとはどういうことか、今後の社会の方向性はどうかあるべきかを示唆するものである。

ということ、このたびの『エコトピアだより』の出版を記念して、同じエコトピア本の著書、カレンバックさんと、内藤の二人が、森孝之氏の新著に対して、エールを送るというのが本コラムの趣旨である。売れなかった第二号の著者である私（内藤）は、幸いベストセラー作家のカレンバックさん、ベストセラー作家になるであろう森孝之さんとは、理念を共有する大の親友であるため、お二人を語らつて、ここにエコトピア3人衆の揃い踏みが実現した次第である。

森さんのことは「最小の消費で最大の喜びを」

日本が高度経済成長軌道に乗つた1958年、19歳の私は庭で植樹を始めると同時に工業デザインを学ぶために進学しています。この選択が「森を作つた森さん」と呼んでくださる人を10年前に生じさせ、「エコトピア」と呼ぶ終の棲家を生み出させました。

大学を卒業して総合商社に勤め、繊維部門に配属されました。すでに繊維産業は構造的不況にさいなまれ始めていました。その打開策として私は取扱商品原料から二次製品に転換することを提唱し、大きな成果を収めます。それは、その成功の決め手として「流行」に着目し、伊藤忠ファッショシステムという子会社を立ち上げたおかげです。ウイークデーは近代ビルで既製品の大量消費を囿す仕事に没頭し、週末は爪を土や肥料で真っ黒にする植樹や菜園造りに没頭です。この農と工の間を行き来しているうちに見えてきたものがあります。工業時代が破綻する姿と第4時代を切り開く必要性です。ヒトは狩猟採集時代から農業時代を経て工業時代に至りましたが、有限の資源を用いて無限の消費をうながす工業時代を終焉させ、新天地を切り開こう、との呼びかけでした。しかし同調者が現れず、私は情熱を私生活に傾けました。小さくとも想うところを形にして、そこから第4時代をイメージしてもらおうとの魂胆です。新天地は個性

の尊重やライフスタイルの転換が必定と睨み、私生活空間を創造の喜びを見いだす場にし始めました。工場が生み出すコピーをもつばら消費する生き方が諸悪の根源、と見たわけです。やがて、家族が助け合い、農業時代の生活の知恵と近代科学の成果をうまく組み合わせれば、難なく循環型生活を手に入れさせる庭を私は創出しました。専業主婦であった妻は少数農耕民族を主テーマにした人形作家になりました。この過程で私たち夫婦は、日々の太陽の恵みの活かし方や、日々の生活の営み自体を楽しむ生き方にたけました。そこで私たちは、この生き方を手に入れさせる庭をエコライフガーデンと呼び始めています。振り返ってみれば、私は学生時代に知ったデザイナーの元祖、ウイリアム・モリスの『ユートピア便り』に感化されていたようです。その後、内藤正明氏と知り合い、その著書『エコトピア』に触れたり、カレンバックさんの『エコトピア・レポート』を知ったりするところとなり、大きな感動と共感を覚

えるとともに勇気付けられています。そのようなわけで、写真も駆使して私生活を紹介する一書を生み出すときに、躊躇することなく『京都嵐山 エコトピアだより』という題名を選ばせてもらった次第です。

私は「一つの地球で済ませたい」とのスローガンを、妻は「創ることは生きる証」との心境を表明しています。自然の摂理を尊重しながら先人の知恵と近代科学の成果を融合させると、最小の消費で最大の喜びや豊かさを手に入れる生活や生活空間を創れそうです。

カレンバックさんからのエール

多くの自然界の変遷過程と同様に、エコトピアの発展も段階を追って進行する。1975年に私は小説『エコトピア』を出版したが、それは未来において生態学的な意味で持続可能な社会を描いた初の試みであった。その中には、大規模なリサイクル、太陽光や海洋温度差などを利用した再生可能エネ

ルギー、エネルギー効率のよい小都市、有機農業、そして持続的な森林生産といった、当時としてはまだ耳慣れない多くの事柄を構想した。いまや地球規模の環境破壊が進行する中で、それらは有望なビジョンであつたろうし、また世界中の人々がその実現を望むことになつた。

その後、内藤正明氏はエコトピアの実現へとつながる、実世界でのトレンドや技術に関する科学的な研究成果を出版し、エコトピアの概念、緻密な分析、実践のための基礎といったものを提示された。単なるお話には関心を払わなかつた多くの科学者やビジネスマンが、持続可能な未来の見通しについて真剣に考えるに至つたのはまさにこの業績によるものである。

そして今、森孝之氏が『エコトピアだより』を出版された。これには自分の土地に、自分のエコトピアをどのようにして創り上げたかの実践の物語りである。そこではモノの循環利用、自然光を巧みに取り入れる住まいづくり、みずみずしく栄養価の高い様々な食物

の生産が徹底されている。森氏の熱心な作業や工夫の数々は豊富な写真で記録され、そこにはご自身の考え方やその成果についての解説も添えられている。本書を通じ、どうすればエコトピアのビジョンと科学を実践に生かすことが可能なのかを見て取ることが出来る。これは、エコトピア本を最初にフィクションとして著した私にとつても大変喜ばしいことである。

売れなかつた「エコトピア」本の著者・
内藤からのエール

1992年に出版した拙著『エコトピア』は、工業立国として高度成長途上にあつた日本で受けるはずはなかつた。というのも、全体を貫く主張が「農系社会の復権」だつたのだから。そこに書きたかつたのは、大規模な都市工業化が地球規模での環境の危機と資源の枯渇という、帰結をもたらすであろうという危惧が前提になつている。さらにそれと相俟つて、どこまでも国どうし

で依存し合うグローバル経済の危うさを考えるなら、早晩、地域固有の文化、伝統や自然と共生する、農系社会に回帰することがどうしても必要になるだろうという問題提起であつた。

しかし、その後もわが国では大規模工業による大量生産と、それを支えるグローバル経済に依拠した高度成長が続き、そのような私の提案はごく一部を除き、多くの人には全くの妄想しか受け止められなかつた。しかし、拙著のエコトピアでは、いましきりに言われ始めた地産地消、工と農のワークシェア(半農半X)、コミュニティ経済、地域適正技術、そして総体としての地域自立などをすでに提起していた。

ようやくここ数年、私の主張した世界の危機が、かなり現実のモノとして認識されることとなり、したがつて、その克服のための方法も、先に私が言つたことと、ほとんど同様のことになつてきた。

自分がなぜそのような「先見の明!」とも言うべき考えに至つたかは、いくつかの契機がある。一つは、長く国の研究

機関において環境行政の手伝いをしてきた過程で、この国の体制の中で真に環境を尊重するということは、ほとんど不可能に近いと感じたことである。これは単に個別の政策の問題ではなく、結局20世紀文明のあり様そのものだと考えるに至ったことが大きい。そのことをできるだけ論理付けて、エコトピアなる新たな文明社会への転換を提起したのである。しかし、「意余つて力足らず」というべきか。結局、当時それはほとんど理解を得ることなく絶版になった。

しかし、このたびの森孝之氏のエコトピア本は、発売早々各方面から関心を持たれている。明らかに時代の変化も大きいと思う。大学の講義で、学生達にもこれからの社会と生活は大きく変わるだろうと強調するが、「それはどんな生活ですか？ 具体的に教えて下さい」と必ず問われる。その場合、この森孝之氏のエコトピアの実践を紹介すると、「半年間の講義で分からなかったことが、最後に見た森先生のエコライフのビデオでよく分かった。もつと早く見せてくれたらよかったのに」と言われて苦笑する。

それは分かってはいるが、もしそうしたら、その後の半年の講義を聞いてくれるかどうか心配で、いまでもずつと最後に見せることにしている。なお、毎年ビデオを見せた後にアンケートを取るが、年々その理解者の割合が増えて、いまや90%を越える学生が、「自分から見ても理想のライフスタイルであると思う」と回答するようになった。カレンバックさんが言うように、私もこの状況を大変嬉しく思っている、というより感無量と言った方が当たっている。

実践の力の大きさを改めて感じながら、何とかこの「エコトピアだより」が多くの方の若者の心を捉えて、彼らがその意義と方向性を模索してくれるようになれば、遅まきながら日本は救われるかもしれないと希望を感じつつある。

終わりに(内藤 正明)

カレンバックさんのエコトピアに出会って驚いたのは、自分が知らずに出版社の提案で決めた本のタイトルが、

カレンバックさんのベストセラーの題目と同じで、これは剽窃になるのではないかといいことである。しかしその後どこからも文句がこない内にご夫妻とも仲良くなつて、とうとう今回はそれを種に共同でコラムを書くことができただので、もう無罪放免であろうと思っているが……。さてどうだろう。

もつと驚いたのは、言うまでもなくその内容だった。カリフォルニア州がアメリカから独立してエコトピア国を作るといふフィクションである。私も地域自立をゴールにしていたのが、まさか独立戦争までは考えなかった。しかし、なるほどアメリカならそれもありかなと思つた。その理由は、長くなるので省略するが、大方は想像されるのではないだろうか。

そして、最新の森孝之氏著の「エコトピア」本にいたるのであるが、それはフィクションでも理屈でもなく、現実にかも夫婦で40年かけて手作りされた実在のエコトピアである。その内容は、ご本人の紹介に譲るが、その小さなモデルがいま評判を呼んで、あらゆる階層



中央がカレンバック氏、右は奥様、左が内藤氏

の人々から関心が持たれている。エコトピアの本の先輩であるカレンバックさんにも私も、これでようやく「エコトピア」時代が来たと実感している。この実践が様々な形と内容を持って各地に拡がり、新たな文明社会を切り開いてい

く可能性を感じてどれほど嬉しく思っている。以上のことを広く伝えたいとの思いで、このコラムを本MOH通信で企画していただいた。趣旨をご理解の上、共感いただければ幸いです。

■エコトピア だより

- 著者／森孝之
- 発行／小学館
- 価格／1890円
- 内容／京都嵐山からおくる、自然循環型生活のすすめ。「なんていそがしいスローライフでしょう」



アイトワにて 森孝之さん



無二物中無尽蔵
有花有月有樓台
内藤正明

● ないとう まさあき 1939年大阪府生まれ。1962年京都大学工学部卒業、1969年同工学博士、1974年国立環境研究所主任研究官、1990年同統括研究部長、1995年京都大学工学研究科教授、2002年同大学院地球環境学学長。
現職／佛教大学社会学部教授、琵琶湖環境科学センター長、京都大学名誉教授、(NPO)循環共生社会システム研究所・代表理事、(NPO)KEES環境機構・代表理事、他。
著書／『持続可能な社会システム』、『地球環境と科学技術』岩波講座など。
活動／持続可能社会の理念と実現方法に向けた研究およびその実践活動。

びわ湖のプレゼンター 「観光船」の今



中井 保

琵琶湖汽船株式会社 代表取締役社長

琵琶湖汽船が誘う、 環境の聖地・びわ湖

みどり丸、京阪丸、^{はり}玻璃丸、ミシガン。びわ湖の船の歴史を一世紀以上にわたり築いてきた琵琶湖汽船。観光のスタイルが変化し、人と湖のかかわりが移り変わる中で、船の旅、びわ湖の旅を進化させてきた。今年一月に就航したばかりの新船「megumi」は、親水性と環境がテーマ。「環境の聖地・びわ湖」の旅へと私たちを誘う。

- 聞き手 辻村 琴美／本誌編集長
- 琵琶湖汽船株式会社 本社／大津市浜大津
- 2009年6月



megumiのクルーキャップ

びわ湖の観光船 百二十年の移り変わり

辻村 御社は、琵琶湖汽船のご先祖様である「湖南汽船」が明治十九年（一八八六）の大晦日に創立されて以来、実に百二十年あまりの歴史を誇る老舗企業ですね。

中井 苦しい、苦しいの連続です（笑）。フリー業界も含め、観光船というのは事業としてなかなか厳しいんです。アメリカ人から言わせると、百二十年もの歴史があるのならば、とてつもない大企業になっているか、とつくに潰れているかのどちらかはずで、中途半端に継続している我々はいかにも日本の企業だそうですね（笑）。褒められているのか、けなされているのか微妙なところですね。**辻村** でも滋賀県だと、観光客数そのものに限りがあるでしょうし…。

考えています。
辻村 ひと口に観光船といっても、内容は時代ごとに変化しますね。

中井 サービスの中身は当然変わっていきます。その昔は竹生島や近江舞子へ、お客様を運ぶことそのものがサービスでした。玻璃丸（昭和二十六年就航）の時代はいわゆる観光をテーマに、びわ湖を走る船の旅を楽しんでもらおうと。しかし次第に、ゆったりとした時間の過ごし方だけでは、お客様に満足を与えられなくなってきました。それで登場したのが外輪船ミシガン（昭和五十七年就航）です。ミシガンは、湖上に異空間をつくるという発想のもと、アメリカの外輪船にベルサイユ宮殿の内装と帝国ホテルのサービスを、というのがコンセプトだったんです。少しは冗談もあったかもしれませんが、思い切りグレードの高い異空間をつくるということですよな。

辻村 当時としては驚きますよな。

中井 それに、もつと珍しいだろうというので付け加えたのが、外国人スタッフによるサービスでした。

辻村 よく覚えています（笑）。
中井 まさに非日常です。しかし、こういうサービスは、なかなかリピーターが期待できないんですよな。

辻村 一生に一度で充分満足したと（笑）。

中井 ええ。特に平成になると、観光に対するお客さまのニーズが大きく変化します。結果、観光業界は平成二年頃から右肩下がりのいいところですよ。その中で、個別の努力やノウハウのあるところだけに、ワッと人氣が集まるんです。例えば遊園地でも東京デイズニールンドの一人勝ちで、それ以外はほとんど駄目ですよ。

辻村 確かにニーズが細分化されている感じがします。

中井 さらにいえば、ミシガンの異空間が、異空間でなくなったというのがあります。ですから現在のミシガンは、お客様を何かで驚かせようという異空間志向ではなくて、びわ湖に來られたお客様に、びわ湖の魅力を知っていたらどうと体験型のクルーズ船に変化したつがあります。実際、昔の船内案内で

びわ湖の「び」も言いませんでしたから。「ミシガンへようこそ」というのが決まり文句でした。

辻村 社業そのものの質が変化していくような感じですね。

中井 びわ湖を船の上から楽しんでいただく、知っていただくというのは、



なぎさ公園と琵琶湖ホテル

やはり我々にしかできない商売ですから。びわ湖をプレゼンテーションするという役割が、事業の大きな柱になりつつあるんです。

辻村 私も琵琶湖汽船さんには、びわ湖と人をつなぐコーディネイター役が期待されているのではないかと思います。



左が沖島、右が長命寺



デッキから見上げる琵琶湖大橋

新船 me g u m i が誘う 環境の聖地・びわ湖への旅

中井 そうした中で生まれたのが「ぐるつとびわ湖一周クルーズ」という商品であったり、新船の「me g u m i」です。（※同クルーズは、びわ湖を朝から夕方にかけて、大津〜長浜間の懐かしい「玻璃丸航路」をゆつたりとたどる）

辻村 その me g u m i に私たちは乗船させていたのですが、まるで湖上を走るリビングですね。「シッブ・オブ・ザ・イヤー二〇〇八」（日本船舶海洋工学会主催）を受賞されたところで、おめでとうございます。

中井 ありがとうございます。お客様に水に親しんでいただくにはどういった船がいいのか、よく考えた末に生まれた、会社としてはおよそ二十年ぶりの新船なんです。デッキが低くて、開放的だったんですよ。まさにびわ湖を楽しんでいただくための船です。窓を開けることのできない高速船とは対極にあります。

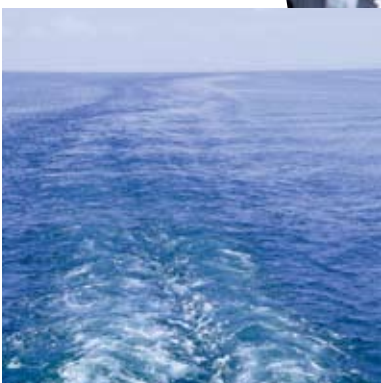
辻村 me g u m i は小型客船に分類されるそうですね。非常に小回りがきく



沖島の弁財天(厳島神社)

というか、多景島の名前の由来は知っていても、その場で三百六十度、ぐるりと旋回しながら島の形を眺めるといふのは、とても贅沢な体験でした。

中井 なかなか皆さん、湖の上からびわ湖を見るときはいい機会はないでしょうね。



湖水が近くて、さわやか

辻村 そうなんです。浮御堂も白鬚神社の鳥居もびわ湖の側が正面ですから、現代人とは違った自然観を持っていただろうと思います。

中井 多分そうでしょうね。でも、現代人がそうしたことに気づくというのが、次の何かにつながるきっかけになるの

ではないでしょうか。我々はそれができるのは琵琶湖汽船だけだという自信をもって、ソフトの部分にできる限り力を注いでいこうと思っっているんです。

びわ湖の「地」の価値で生かされていく

辻村 その場合、ソフト面の特徴になるのは何だと思われませんか？

中井 八十年代半ばに堺屋太一さんが日本の近未来を「知価社会」だと予測されました。そして『知価革命』という本の中で、これからの企業の発展は、企業としての付加価値を備えることだと述べておられます。しかし今、私がよく口にするのは、我々の会社は知価ではなく、びわ湖という地元の価値、つまり「地価」だということです。びわ湖でしか生きられない会社なのですから、びわ湖の価値によって琵琶湖汽船は生かされていくのだと。そういう気持ちをお忘れてはならないと思っています。

辻村 まるでびわ湖の固有種のような会社ですね(笑)。



たくさんの人で賑わった湖上シンポジウム

中井 そうです(笑)。それと、もう一つはびわ湖の恵みというべき「もの」の価値ですね。これによっても生かされていこうと。例えば「道の駅びわ湖大橋米プラザ」にあるレイクサイドファーム(農水産物直売所)の施設がそうです。

辻村 そちらは琵琶湖汽船食堂株式会社さんが手がけておられるんですね。県内産にこだわった品揃えが人気だと聞いております。

中井 こういう時代ですから、もう一度、原点に帰るような姿勢を大事にしています。びわ湖の良さを皆さんに、できるだけ知っていただくための仕事にも徹しなければ。

辻村 今号で紹介している「びわ湖の宝発見ツアー」も、できればもっと多くの方に経験していただきたいという思いはあるんです。ですが、ビジネスとして成立させるには、まだまだですけれど。子どもたちには「うみ

のこ」がありますが、私たち大人にも、学習船をぜひ(笑)。

中井 そうですね。これは私の思いですが、はるばる外国や県外から来られたお客様には、びわ湖の上でぜひ、パーティーなりお食事なりを楽しんでいただきたいんです。これはもう商売抜きで、滋賀県にいる者の感覚としてです。

辻村 「おらが国」ですね。何を自慢するかといえば、やはりまずびわ湖ですよ。

中井 ところが、びわ湖があまりに身近すぎるのか、この人たちはびわ湖を借景ぐらいにしか思てへんのかいな、とそう感じさせる場面に出くわすことがあるんです。

辻村 たしかにそういう温度差はあるかもしれませんね。でも、先のツアーは参加された皆さんから大変好評で、もっとびわ湖のことが知りたい、びわ湖のまわりにはまだまだ自分たちの知らないことがあるはずだと、とにかく知的欲求がそそられたようです(笑)。それは、MOH通信の執筆者陣だからということだけではないと思うんです。この

ツアーを面白いと思う同じ感性の消費者は沢山おられるはずだと思いますね。

中井 ぐるっとびわ湖一周クルーズも、首都圏からのお客様が目立つんです。代理店を通じてPRしているせいもありますが、本当は私としては、まず地元滋賀県のお客様にこそ、と思うんですよ。

辻村 灯台下暗しというか…、見えずぎて見えないというか(笑)

中井 そういう意味で、今、滋賀県の教育委員会が「近江水の宝」と題して、びわ湖や水にまつわる「もの」や「こと」を、文化的資源として掘り起こしておられるでしょ。それと、さる五月には「世界遺産・びわ湖を夢見る会」として、びわ湖・湖上シンポジウム(ピアンカ船上)も開催されました。この気運をぜひ追い風にしたいですね。

辻村 私も参加させていただきました。嘉田由起子滋賀県知事と写真家の今森光彦さん、成安造形大学前学長で、現在、同大学附属近江学研究所所長の木村至宏さんらによるパネルディスカッションが、非常に印象的でした。びわ湖の歴史と自分の暮らしというものが、

一つにつながったような、そんな気がしました。

中井 それこそびわ湖の本質的な価値ですよ。環境というのほとても大事なことだと、そういう大きな概念は小さな子どもにも根つきつつあります。しかしそれとは別にもう一つ、滋賀県はびわ湖の本質的、歴史的な価値を伝えていくべきだと思います。ですから私は、滋賀県に赴任した当時から「これからは環境の時代だ。びわ湖を環境の聖地としてアピールしよう」「びわ湖の世界遺産登録に向けて、なぜ動かないのか」と、この二つを申し上げているんです。

辻村 見るびわ湖から知るびわ湖へ、ニーズは変わってきていますね。

中井 観光業界としては、今後のターゲットは年齢的にはいわゆる団塊の世代、そしてイメーシ的には四十代の女性なんです。なぜなら、この層は知的好奇心に溢れています。これが従来ターゲット(団体、ファミリー)とは非常に異なる部分で、ここをくすぐらないと業界の復活は難しい。我々としては、びわ湖の「地価」をいかに商品に組み込ん

でいくかだと思っています。しかし、我々が単独でというのは難しいですから、よそさまと連携しながら滋賀県のブランド・マネージメントを一生懸命にやらないと。滋賀県の食のブランドが、いつまでも鴨鍋とフナ寿司だけでは寂しいじゃないですか(笑)。となるとやはり「地」にこだわらなければ。我々は「知」ではないんです。

びわ湖を世界遺産に。 守るべきびわ湖への コンセンサスのために

辻村 琵琶湖汽船さんにも百二十年の間に蓄積された知がおりだと思っておりますが、何よりDNAにびわ湖が組み込まれているんじゃないですか。

中井 それはそうかもしれませんが。逆にそのDNAがあるからこそ、これまで生きてこられたのだと思います。

辻村 私たち滋賀県人にもびわ湖のDNAはあるでしょうし、日本人にも水辺を特別の場所だと思うDNAはあるでしょうからね。

中井 今森光彦さんの写真集や、NHKの番組『映像詩 里山く命めぐる水辺』にも登場される田中三五郎さんという針江の名漁師さんがおられるでしょう。あの人の存在を言葉で表現するなら、漁師のおじいさんとなりますね。しかし、今森さんの写真や映像をみれば、三五郎さんの漁は地域の伝統であり、その存在は一つの文化なのだ、日本人なら誰もが理解できると思うんです。しかし、外国人の目には、老人が古ぼけた漁船に乗って、漁をしているとしか映らないと思うんです。その差は何かといえば、やはりDNAですよ。そのDNAに訴えられるような地の価値が、我々の今後の糧になろうと思います。

辻村 実は、田中三五郎さんのお宅にうかがい、少しお話をさせていたいただいた経験があります。まず『玄関にかかつてる写真を見とくれ』と言われ、そこに今森光彦さんの写真が飾られていました。もうそのひとりで、三五郎さんの誇りというか、深い満足が伝わってくるような気がしました。自分たちの価値を、誰かに理解してもらうことは非常に大切だと思います。しかし一方で、びわ湖が世界遺産になることで、結果として新たな資本が入り、今あるものが消費されてしまうのでは、という心配の声もありますね。

中井 びわ湖が世界遺産になったからといって、「これだけの経済効果ももたらされる」ということには決してな

らないだろうと思うんです。大切なのは、世界遺産にすることによって、今残すべきもの、未来に伝えるべきものを浮き彫りにし、それを一つのコンセプトにしないといけない。びわ湖をこういう姿で残すのだというコンセプトを皆が共有できれば、ガチガチにがんばらなくても、「あれは残さなアカんのや」と、自然な流れができるのではないのでしょうか。そういう意味で、私はびわ湖を世界遺産にする必要があると思います。

辻村 世界遺産になって、より消費されるのではなく、びわ湖という「地価」の定着ですね。

中井 ええ。それもびわ湖の周囲が高層の建物で囲まれてしまわないうちでなければね。

辻村 私たちもあまり悠長にはしていません。

中井 あまり我々が表立ってしまつと、自分のところの商売のためだろうと言われるかもしれないので難しいのですが、しかし、びわ湖を壊そうというものからびわ湖をどれだけ守っていける





外輪船ミシガンと中井社長

か、そのことを企業としてこれからも
真剣に考えていきたいと思っています。
辻村 本日はありがとうございました。

地価く生きる

中井保

● なかい たもつ 1950年、大阪府生まれ。1974年、関西学院大学経済学部卒業。同年、京阪電気鉄道株式会社入社。ひらかたパーク園長など、主に事業部業務を担当。2004年、琵琶湖汽船株式会社代表取締役。2007年、京阪電気鉄道株式会社 執行役員。ほか、関連会社の役員を兼任。2007年、海事関係功労者近畿運輸局長表彰。(社)びわこビクターズビューロー理事・副会長
滋賀経済同友会副代表幹事などの公職を務める。

● 琵琶湖汽船株式会社 所在地／大津市浜大津5丁目1番1号
<http://www.biwakokisen.co.jp/>

● 「近江水の宝」については…

滋賀県教育委員会事務局 文化財保護課
TEL.077・5228・4674
FAX.077・5228・4956

M・O・H レポート 2

〈めばえ「環境産業」④〉

M・O・H通信執筆者が行く びわ湖の宝発見ツアー



megumiに乗船

大津港から沖島沖、今津港から針江の集落へ

滋賀県の地形的な特徴をさして、よく言われるのが滋賀県は“お椀の中の小宇宙”。

今回のツアーは、お椀の底のびわ湖から、水の旅路を遡るようにして湖と里をめぐる計画だ。旅は大津港から始まった――。

■参加者(50音順・敬称略)

- 石津大輔(針江のんきいふぁ〜む)
- 石津文雄(針江のんきいふぁ〜む)
- 井上昌幸(滋賀県異業種交流連合会会長)
- 今関信子(児童文学作家)
- 岡部達平(写真家・エコディレクター)
- 海東英和(高島市前市長)
- 川戸良幸(琵琶湖汽船(株)常務取締役)
- 高見啓一(NPO「FIELD」専務理事)
- 徳永拓美(日本画家)
- 豊田令枝(ブロガー「豊ママ」)
- 内藤正明(NPO循環共生社会システム研究所代表理事)
- 畑 裕子(作家)
- 森 建司(循環型社会システム研究所代表)
- 森 孝之(アイトフ)
- ほかM・O・H通信編集局スタッフ

■2009年6月



太陽光と風力発電システムを搭載

すべるように走る船上から びわ湖を眺めつつ

我々が乗り込んだクルーズ船「me^{gumi}」は、今年一月に就航したばかりの新造船だ。船体はアルミ軽合金製の三胴船で、軽く抵抗が少なく、低燃費での航行とスピードアップが可能とのこと。特長は何よりデッキから湖面まで近く、水深の浅い所では、湖の底まで見渡せるほどだ。バイオディーゼル燃料対応で、太陽光と風力による発電システムを搭載した、まさに二十一世紀型の環境啓発船だ。

湖岸からびわ湖を眺める機会にはしじゅう恵まれた私たちが、湖上から眺める機会はどうそう与えられるものではない。最初に見えてきた浮御堂も、隣接する出島の灯台も、こちら側、つまりびわ湖の側を正面にしていることに改めて気づく。何でも人間中心に考えるせいか、自分たちのフィールドを向いていないことが、かえって新鮮だったりする。

珍しい光景にも出会う。カワウが隊

列を組んで、湖面から数十センチの高さを飛んでいく。隊列は長いものは百メートルを超え、それが次々とやって来る。大津港を出港して、約一時間で沖島沖を通過。ここで今関信子さんから、とっておきのお話をうかがう。

沖島の暮らしの匂いを 伝える今関さんの絵本

今関さんの絵本『ぎんのなみおどる』（朔北社／二〇〇三年）は、塾通いで勉強一辺倒ではない、日本のいろいろな子どもたちを描くために企画されたシリーズの中の一冊で、世界にたった一つ、淡水湖に浮かぶ島の小学校を舞台にしている。今関さんの取材時、沖島小学校の児童は六年生が四人で、以下の学年は一人ずつの計九人。描かれたエピソードが、とにかく愉快であたたかい。

走るリビングルーム





沖の白石がニョキニョキ



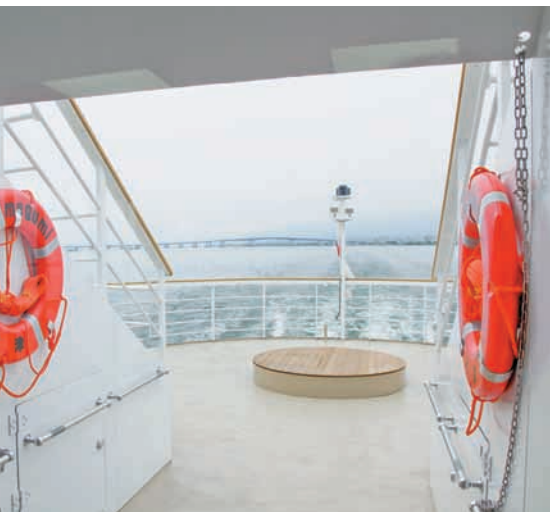
浮御堂。ホントに浮いている

滋賀県のすべての小学五年生が必ず乗船するびわ湖の学習船「うみのこ」。二、三校の児童を合わせ、二百人近くが一度に乗船するが、島の小学校からはたった一人か二人で、あきらかに分が悪い。心がちこまってしまう。そんな島の子の気持ちを察してか、うみのこが沖島近くを通過するとき、島の港に小学校の仲間や先生、家族や島中の人たちが駆けつけ、それぞれ手にした手ぬぐいやエプロンやら上着やらを振り回し、その子に向けて精一杯のエールを送る。自分の漁船でうみのこのまわりを旋回する、娘思いのお父さんも登場したりする。そして、物語のクライマックスは、子どもたち全員が練習に励んできた沖島太鼓だ。

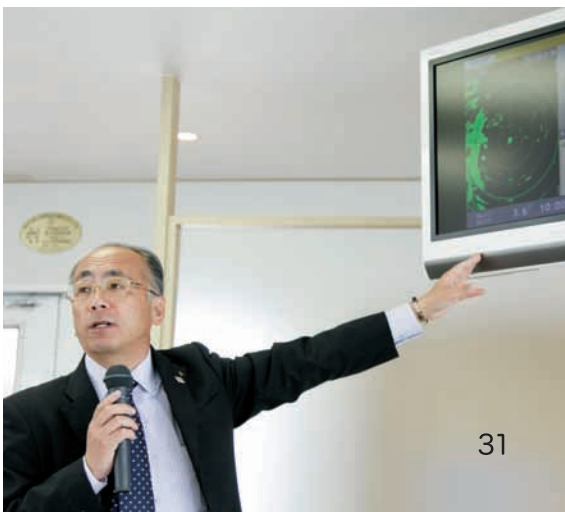


今関先生の朗読よかった

デッキに出ると空と湖をひとりじめ



川戸常務からモニターで説明





雄琴の町並み



伊崎のさおとび。こわそお〜。



ソラノネの野菜たっぷりおかず

まずはMOH通信23号でも紹介した泰山寺の「ソラノネ」でお昼をいただく。もちろん。

沖の白石を通過して、船はいよいよ今津港に到着。ここからはバスに乗り換え、新旭町針江の石津大輔さんと、お父さんの文雄さんにナビゲートしてもらおう。

農をめぐる、水をめぐる、未来を願う人々の営みこそ宝

「ふえろさかな！ わいて銀の山となれ！ ドンドコドンドン ドンドコドットン！」 今関さんの迫力の朗読に、大漁の願いを込めて、身体いっぱい力で太鼓を打つ子どもたちの姿が浮かんできそう。

岩田さんからお話をきく。ソラノネ店内



開放的なソラノネの空間



ソラノネはブルーベリーフィールズ紀伊國屋の松山剛士さんが中心となって手がける、手づくりのかまどと、かまど炊きのご飯をコンセプトにした食堂だ。

下界から離れたような泰山寺の広野にあり、命名の由来となった「雲雀のさえずりが空から降ってくるような、空の根っこが大地にふれるような“ロケーションに魅せられてしまう。海東英和さんのお話によれば、ここは戦後の食糧不足を解消するための開墾地で、入植者の多くは長野県飯田市あたりからの人々だったそうだ。地元の人が放り出した荒れた土地を、“こんなゆるやかな丘陵地は、まるで天国みたいだ”と喜ばれたという。そんな土地の物語がありながらも、いまは後継者不足に悩む農家が増えているのが現実だ。

この日、ソラノネに来られていた松山さんの母、会社代表の岩田康子さんも、農への思いをこう語られた。

「農という仕事は、命をつないでいくための何より大切な仕事。沢山の人で支えていくべきはずなのに、それができていない現実には、様々なところで

皺寄せが生じている。でも、それを政治のせいにしても仕様がなない。命をつなぐ仕事を、少しずつでも知ってもらうために、ここで“かまどで炊いたご飯は、こんなにおいしいのか”と感じてもらえればと思う。自分たちで火を使え、ご飯が炊けて、あとはお味噌と少々の青菜があれば生きていける。それは貧しいことではなく、とても幸せなことなのだ伝えていきたい」

ソラノネのご飯は、石津さん親子が育てたお米を使っている。最近の不況で、農業が一ビジネスとして脚光を集めているが、大輔さんは「田んぼが工場になることに強い危機感を覚える」そうだ。その気持ちは、とてもよくわかる。

人間のためだけではない場所

お昼を済ませ、この日のメインである針江の集落に移動。ここでは田んぼは人間のためだけの場所ではないことを実感させてもらった。

が、その前に針江といえば「生水の郷」である。一軒一軒を縫うように巡



清冽な針江の水の流れ



ボランティアさんが案内。生水の郷



石津文雄さん。気取らず、おおらかに農を支えてくれます



「L字」すると、魚がひと休みしやすいかも…

らされた水路には、丸々とした鯉がゆつたりと泳いでいる。昔は田んぼで捕まえた鯉を一旦この水路に移し、泥臭さが抜けるのを待って冬の時期に食すこともあったそうだが、今ではほとんど水路の鯉を食べることはない。だから丸々としている。また、地元の人のお話によると、鯉は“かばた”につけられたカレー鍋が好物なのだとか。

その“かばた”は、針江集落の全約百七十戸のうち百戸に見られ、コンコンと水が湧き出る。傍らには歯磨き粉やらタワシやら、仏さんに供えるお花やら漬物樽やら、暮らして欠かせない存在なのだ。しかし、その高い文化性にスポットがあたるまでは、生水を飲むことが野蛮なことのようにいわれ、“かばた”を暮らしてから切り離そうとした時代もあったのだとか。それを変えたのが、今森光彦さんの一枚の写真であったという。宝のような逸話が、この土地にはある。この後、集落から離れ、滋賀県がすすめる「魚のゆりかご水田プロジェクト」にも参加する石津家の田んぼを見学。かつて、田んぼを棲家とし、産卵場所と

していたフナやナマズやドジョウの姿をもう一度取り戻そうと、田んぼと水路をつなぐ写真のような魚道が設けられている。この装置は全国的には「千鳥X型魚道」と呼ばれるが、高島のものはL字状になっているのが独特で、「高島式L字X型魚道」という。L字にした方が、より魚が遡上しやすいと、農家の経験と知恵が活かされた。

新しい生き方を模索する時代にかかっている

魚や昆虫、生き物たちが機嫌よく暮らせる環境づくりには真剣に取り組む針江・高島の地。石津文雄さんにお話を聞いた。

「人間がほんの少し手助けすることで取り戻せるものは沢山ある。絶滅してしまつた生き物を、ないものねだりしても仕方がない。昔話をするよりも、そこに行けば昔からの姿をした場所がある。そういう場所を守ること、残すことで子どもたちに伝えられるものが、きつとある」

そうした思いの人たちが、この土地を守っているからだろうか。針江には現在、七十人近い小学生がいて、市内でも異例の子だくさんの集落なのだ。

さて、旅の終わり。内藤正明さんのお話を聞きながら、一日を振り返る。

「昔のある時代からすれば、滋賀県の人口も工業生産も、あらゆる人間生活が倍近くに成長していながら、びわ湖をそのまま保つということは非常に難しい。数字の上でいえば、今日、見学



今津港を出発



本日も絶好調の内藤先生

した”かばた”が生活様式の主役であったような時代が、地球環境を守ることができるギリギリの生活レベルでしょう。それを認識した上で、私たちは環境保全について議論する必要があります。

”かばた”や、琵琶湖博物館に展示されている”富江家”のような生活。それは本当に、惨めで不幸な生活かと問いかけてたい。ソラノネのかまじのような新しい生き方を模索する時代に、私たちはさしかかっているのです”

びわ湖の宝とは、山や平野に降る雨が、びわ湖に注ぎ込むまでの、人のかかりそのものではないだろうか。

その中で、びわ湖を守りたい、自然を大切にしよう、子どもたちに未来を残そう、そんな気持ちに立った人の営みが、また一つ、宝を増やしていくのだ。

みなさんとパチリ。ゆりかご水田の前で



ふれあい

第15回

『捨てきれない荷物』

中井 二三雄



県庁前は、滋賀会館の中にある『湖国と文化』編集室が引越した。とは言っても、同じ館の二階から三階に上がっただけである。しかも編集室とはいえ、私一人だけ、身軽なものである。体ひとつで行けばいい。タ力をくくっていた。

ところが、いざ移動すると
なると、荷物が
あるわあるわ。
人は「いらな
いものは捨て
ればいい」と、
いとも簡単に
言う。人事だ
と思つて、無

責任なものだ。

だが、私にとっては「ゴミの山ならぬ「宝の山」。いつか使いたいと思つている資料、忘れてはならぬ読者からの激励の手紙、没にしたけれど愛着のある原稿、ちよつとした企画メモや走り

書きも重要なのだ。要するに、全部捨てられない。

編集は、積み重ねてきた人脈や資料、ノウハウこそが命だ。編集者にとって唯一の財産と言える。これを活用して読者のニーズにいかにして的確に迅速に応えるか……。一見、無価値に見える紙の山。しかし、活用の仕方次第で、大いなる価値を生み出す宝の山にもなる。今はまだ、磨かれていない原石だけれど、いつかは光り輝く宝石にもなる！何かと屁理屈をつけて、(職場でも家庭においても)今なお捨てられない「ゴミならぬ宝の山に、ひとり静かに埋もれている。

「捨てきれない、荷物のおもせ」

まへうしる(山頭火)

中井二三雄

●なかい ふみお 1949年、滋賀県生まれの著述家。2000年より『湖国と文化』編集長。元シナリオ作家協会理事(月刊『シナリオ』監修委員長)。

琵琶湖は文化の宝庫 受け継ぎ・誇り・活用を!

木戸 雅寿

滋賀県教育委員会文化財保護課

「近江水の宝」とは、長い歴史の中で、形づくられてきた歴史・文化遺産のうち、とくに琵琶湖やその周辺の水との関わりの深いものを発見し、特に優れたものを「近江水の宝」に選定するとともに、地域の資産として長く保存・活用し未来に向けて語り継いでいこうとするものです。

滋賀県教育委員会では、平成20年度より3ヶ年計画で事業を実施しています。

平成20年度は、「つやまう」（琵琶湖や水に対する信仰により生まれた宝）、「くらす」（琵琶湖や水に関連する生活の中から生まれた宝）、「ゆきかう」（琵琶湖や河川を利用した交通、交流から生まれた宝）、「つくる」（琵琶湖や水に対する土木工事等による宝）、「めでる」（琵琶湖や水の美、あるいは水をテーマとした宝）、「おくる」（未来に贈る宝としての琵琶湖）の6つのテーマをもとに、琵琶湖をはじめ31件を選定しました。これらは滋賀県のホームページからダウンロードしてご覧いただけます。延暦寺や近江八幡の水郷、彦根城、烏丸

半島のハスなど、いずれも水の宝にふさわしい内容となっていますので、みなさまもこの機会にぜひ近江の宝を実感していただきたいと思います。

平成21年度は、第2次「水の宝」の選定を行うとともに、あわせて市町や民間と協働して水の宝に関した見学会や講演会などの事業を計画しています。

今後とも、水の宝にふさわしい歴史資産を未来に向かって引き継いでいくとともに普及や活用に取り組んでいきたいと思っておりますので、みなさまも応援していただければと思います。

木戸 雅寿

● きんぎょでゆき川1958年神戸生まれ。

奈良大学文学部史学科考古学専攻卒。考古学専門。中世集落や中近世城郭を研究分野とする。1982年滋賀県教育委員会勤務。現職は滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 記念物担当GL 主幹。

● 「近江水の宝」については...

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
TEL.077・5228・4674
FAX.077・5228・4956

M・O・Hレポート3
〈めばえ「環境産業」一⑥〉



水力発電HP-50（下）でエレクトーン（中）演奏中♪ニューパワー岡田さん（左）

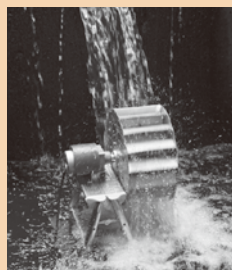
「里山を感じ、知る」

比良の里山イベントレポート

- ◆日時／2009年6月20日
- ◆場所／比良 まほろばの郷
- ◆内容／1.クイズラリー(水力発電)
2.キャンドルクラフト
3.シシ垣物語
4.平成版「虫送り唄」参加

■比良里山クラブ：問合せ先／
〒520-0063 大津市横木2-25-12
比良里山クラブ事務局 三浦みか
FAX.077-527-2833
メール:you_shun.5.9@nifty.com

■レポート 三田恵理子／滋賀県立大学環境科学部
環境計画学科環境社会計画専攻 3回生



小型の発電器は、よく回る



先人の礎「しし垣」(左)。石を積み重ね獣害から作物を守った



手づくりキャンドルの完成です



風船に樹脂を浸してます



代表の三浦みかさん

6月20日(土)、比良山のふもと「まほろばの里」を拠点に活動する比良里山クラブ主催のイベント、「比良の里山に集まらんせ！」が開催された。テーマは「里山を知る」。どのように里山を知るのが、親子連れを中心に約80名が参加した。

イベントは森の中のコースを回るクイズラリーからスタート。本物の里山を体感してもらおうと、クラブで製作した石窯や江戸時代からのシシ垣、農業用水路を利用して設置された軽量携帯型マイクロ水力発電機などを回った。水力発電機のポイントでは、発電機にキーボードがつかわれており、子どもたちが弾いたり音楽を流したりして楽しんだ。

続いて、風船を使ったキャンドルづくり。水の入った風船を溶けた樹脂の中に出し入れし、キャンドルの器をつくる。子どもたちには水風船が重かったようで、親子で協力して作業する姿が多く見られた。固まったら、中の風船を割って取り出し、重りの樹脂を入れ、最後に市販の丸いろうそくを入れて出来上がり。まああるいろいろそくに火が



キャンドル行列で虫送り。里と人がひとつになる



太鼓の響きが豪快!



「大きないのししでしょう」と高橋先生

入れられると、まるでホテルのひかりのようなやわらかい灯りがともった。

そして、奈良大学高橋春成教授による、江戸時代に築かれた「ジン垣物語」のお話と地元の方との対談。シシの毛皮や骨を使った演出は子どもにも大人にも分かりやすく、興味深い内容だった。

最後は、和太鼓の演奏が花をそえ、水行灯の並ぶ農道を参加者が自分で作ったキャンドルを手で平成版「虫送り唄」が行われた。

主催の比良里山クラブは2003年から里山を使った子どもたちへの環境教育を中心に活動している。「子どもたちのいきいき、きらきらした目を見ると、やって良かったと思うんです。」というのは代表の三浦みかさん。地元南比良の出身で、里帰りのたびに山の変化が気になり、どうにかしたいという思いから6年前にクラブを設立。現在は主婦を中心に30人のメンバーで様々な活動を行っている。クラブでは、8月に「里山を味わう」、11月に「里山を観る」、1月に「里山を使つ」というテーマでイベントを企画している。

寄稿

〈めばえ「環境産業」—⑦〉



東光寺は天台真盛宗のお寺、左はご住職の川本哲斎さん

さ づ か Dわ

幸津川発信！ アートのめばえ

守山野外美術展2009

川本 哲慎

日照山東光寺 副住職

「きゃー、わあ」「リーンリーン」何やらお寺が賑わしい。子どもたちが学校帰りにお寺に集合「おもしろーい」ことが始まっている。子どもとおとなとみんながいっしょになってかもし出すアートをご本尊があたたかく見守っている。

■滋賀県守山市・日照山東光寺

■2009年5月



井上信太さんの作品「音魂がよるよる／ふしぎな洞窟を作る！」

今年のゴールデンウィークも、守山市幸津川町にある「東光寺」では、子供たちの声や、聴いた事のない音楽が鳴り響き、若者やお年寄りの入り混じった賑わいで溢れかえっていました。

私たちが地域密着型アートイベント「守山野外美術展」を立ち上げて、今年で2年目になります。まだまだ始まったばかりの活動ですが、そこにはすでに新しい可能性が芽を出し始めています。

この展覧会は、関西近郊を拠点とし、国内外で活動する若手現代美術家たちが、1週間お寺に集まり、作品展示だけではなく、一緒に作ったり体験したりする催しを開き、来場者と交流します。石やビニール手袋に絵を描いたり、お菓子の箱で家を作ったりする「造形あそび」に加え、身体を使う表現や、楽譜のない即興音楽など、幅広い表現方法を体験できます。

それらは参加作家の作品の一部でもあり、来場者は皆、楽しみながら、目の前で芸術の生まれるプロセスを体験し、作家もその素直な表現にインスピレーションを得て、新たな表現を展開して

行きます。

そこで産まれる物を見て、芸術がうんと身近なものに感じられ、表現欲を掻き立てられるのか、中にはその場で詩の朗読を始めたり、別の日に楽器を持って演奏しに来てくれたり、飛び入り参加で自分の表現を披露する方もいました。

実は、交通の便の悪いこの場所での開催に、初めは少し不安がありました。しかし今では、ここならではの可能性を強く感じています。対象を地域の住人に絞る事で、専門用語にとられないフレンドリーな現代美術展という方向性が生まれ

ミニ絵本は大人気、テラオハルミさんの作品





犬飼美也妃さんのワークショップ「キラキラてぶくる〜大好きキモチ〜」



本堂では林さんの不思議な紙芝居



出川君のボディペインティング



みんなであくさん遊んだね

今年さらさら、近所の方が持ち込んだ「絵手紙」や「書」、家で眠っているお宝」の展示や、幸津川の古い地図に来場者が情報を追加していく、「幸津川今昔」の参加型展示を、現代美術に交えて並べ、よりいっそう面白い化学反応を狙いました。意外な事にそれらがかもし出す雰囲気や、遠方から訪れる美術愛好家たちにも好評で、遠くは大阪や横浜からのリピーターもいる程の、県外からの集客に有効な魅力へと繋がりました。地域にぐっと密着する事で、逆に個性的なイベントに仕上がったのです。

文化は、町や人が育てるもの。現代美術家と幸津川の皆さんが出会って、新しい何かがこの土地に芽を出したなど

お寺での展示という意外性だけでなく、子供やお年寄りで賑わうという美術館やギャラリーにはない独特の雰囲気が生まりました。中でも毎日遊びに来る子供たちは、製作者として、表現者として、さらには優秀な作品解説員としても、重要不可欠な存在になっています。



片岡さんのパフォーマンス「宿る」



いつものお寺が違って見えるよ



こちらも作品、思わず即興演奏



パッケージの家は楽しいよ

確信できる第2回守山野外美術展。来年、再来年に向けて、もっともっとアートの根を幸津川の大地に張り巡らせ、この地域ならではの個性的な表現を、グローバルに発信していきたいらと、夢が膨らみます。

川井真由

●かわもと あきのり 愛知産業大学デザイン学科卒。東光寺副住職を務める傍ら各地の美術イベントに参加・企画する。

大飼美也妃

●いぬかい みやき 武蔵野美術大学油絵学科卒。日本・海外で作品を発表。現在は障害のある大人や子供たちを対象に「表現遊び」の教室を開講。

●守山野外美術展

〒524-0215

守山市幸津川町1-8-9 東光寺内

TEL・FAX 077-583-2222

<http://openartexlog.jp/>

※11月21〜23日、坂本で「お寺deアール・イン・西教寺」開催 スタッフ募集中

ひろがる循環型生活

楽しく美しく美味しく堆肥づくりを



熱心に聴講。お子さまもいっしょに。

「公所の生ごみを減らしたい」

7月5日に、滋賀県東近江市南部地区で開催された「段ボールコンポスト」の作り方講座に参加した。主催は同地区まちづくり協議会（環境部会部長 河島修）。参加者は80名を越えた。

今回の講師は、福岡県の循環生活研究所の理事長 波多野信子さんと事務局長 たいら由子さん。両名は1年のほぼ半分はこの講座の講演に歩いておられるとか。

同研究所の波多野理事長とたいら事務局長のお二人の説明が始まった。スクリーンに映し出された解説書は手書きでわかりやすい。かわいいイラストはたいら事務局長のお手製。子どもやお年寄りにも見てわかる説明だ。この段ボールコンポストは、家庭から出るゴミのほとんどを処理できる。ゴミと言えば汚いイメージが強い。虫や、小動物による被害。この問題を解消するには設置方法と虫を寄せない工夫（古着利用のカバー）をすれば問題は回避される。



段階的にみれるコンポストの中身



「通気が大事です」たいら事務局長

質問「ゴミが分解するとはどんな現象ですか？」回答「ゴミがなくなることでです」その確な回答は、多くの検証事例から導かれたノウハウ（技術）に裏付けられている。堆肥に成長するには三ヶ月の期間が必要。堆肥になった畹には、園芸や野菜の肥料に使うと、かわいなお花や美味しい野菜に恵まれる。ゴーヤなどで日よけ棚をつくらると日陰も作れて温暖化も防止できる。

「段ボールが適しているわけ」

「段ボールコンポスト」の大きさは約30cm角とコンパクト。箱の中身は粉殻くん炭と園芸用土（ピートモス）。その中に台所から出る生ごみを細かく切って入れる。分解するのは家庭にいる菌たちの活躍による（漬物が漬かるのと原理は同じ）。

段ボールの好通気性という特長を生かしたこともミソのようだ。それと混ぜること。毎日、投入して混ぜる。毎日の習慣で、ゴミが愛しくなる人もいるとか。温度管理と通気管理を気をつけ



「わたしもひとつ」完売しました

ることが成功につながるそうだった。お二人の軽快な説明で、あつという間に講座は終了した。次回は、ゴミが堆肥に変わった後のフォロー講座。会場を後にした参加者の手には「段ボールコンポスト」が抱えられていた。

戦国に生きた三姉妹

佐々木 洋一



小谷城は東浅井郡湖北町の小谷山に築かれた山城。規模は大きく、切り立った尾根を階段状に削って郭が連なり、堅堀や大堀切も設けてある。戦国時代、近江の領主浅井家の居城だった。

ルートは麓から徒歩でも行けるが、自家用車なら小谷城の番所跡近くまで行つて、そこからは、御茶屋、御馬屋、黒金門へと続く主郭の入り口が目前。

しかし！折角行くのなら、事前に予備知識があれば更に興味が倍加するだろう。

そこで、お約束のクイズ！

- ①兄、織田信長の命により、浅井家に嫁ぐが、後に織田信長と浅井が反目し、戦となったが破れ、落城の際、三姉妹を連れて脱出した、お〇の方。
- ②三姉妹の長女で、後に秀吉の側室になり、淀殿と呼ばれた〇〇。又、秀頼の母でもある。
- ③後に京極高次の正室となった〇。
- ④小谷城の城主で三姉妹の父、小谷城落城の際に自刃した 浅〇〇政。
- ⑤三女で、後に徳川秀忠の正室となり、

ちょっと
ひといき



一休味佐

お江と呼ばれた〇は、三代將軍家光の母。

⑥ 小谷城落城の際、三姉妹とその母を救出、後、武功により近江の今浜に築城、長浜城主となったのは羽〇〇吉。

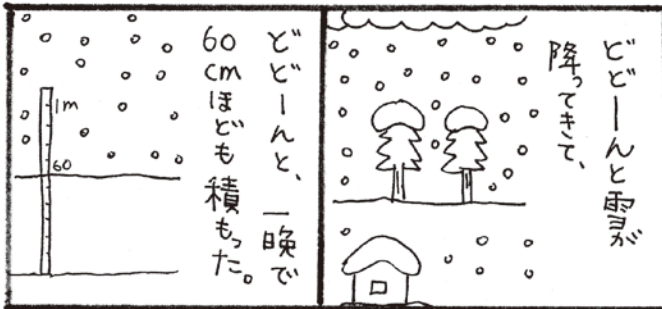
⑦ 長浜市石田町の生まれ、才知に優れ、秀吉の側近として頭角を表していった〇田〇成。

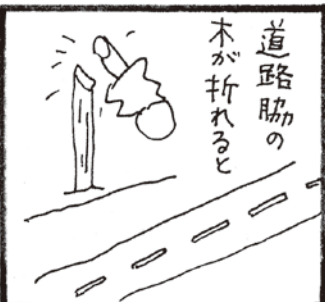
⑧ 本能寺の変で、主君信長を討つたが、中国の毛利攻めから急遽駆けつけた秀吉軍に大敗を喫し、三日天下に終わった、明〇光〇。

⑨ 上杉家の重臣、文武両道に優れ、秀吉からも礼を厚くして迎えられたと云う。某テレビ局の大河ドラマに登場！
〇江兼〇。

⑩ 大阪夏の陣では、一万の兵を率いて、群がる越前勢を中央突破して蹴散らし、家康の本陣めがけて殺到！家康側の旗本は総崩れとなって逃げまどい、家康も万事休すと切腹を決意したと云う。猛将！真〇幸〇。

● ささき よついち 1940年、7月生まれ。長浜市在住。グラフィックデザイナー、画家





道路脇の
木が折れると



雷電線にひっかり



雷電線を切っ
てしまおうだ!

ポチャ



当然...

停電



やみの中の夕食...



何を食べているのか
よまわらない...



電気は翌日の夕方には
復帰したが...



朽木の林は

とんでもない
事態になってきた!

OH! NO!



まず、スギの木は
ホキホキに折れていて

針のよじな林になってる!



折れずに残った木の
方が少ないぐらいの所も。



また、マツの木も、
まわりの木をなぎ倒し
ながら折れていたり、



根っこからひっくり返っ
ていたり。



林を歩いていると、

バキッ
バキッ
という音が、

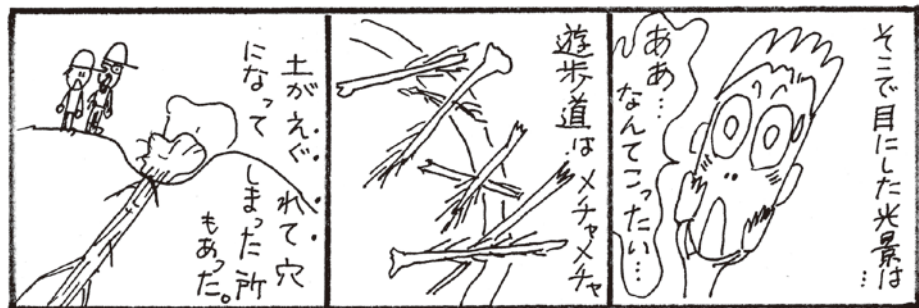
キーンと鳴ることもある。

オノムキの勤める

「くつきの本林」も

林の被害を多く受け

雪がとけた頃、
偵察に行ってみた。



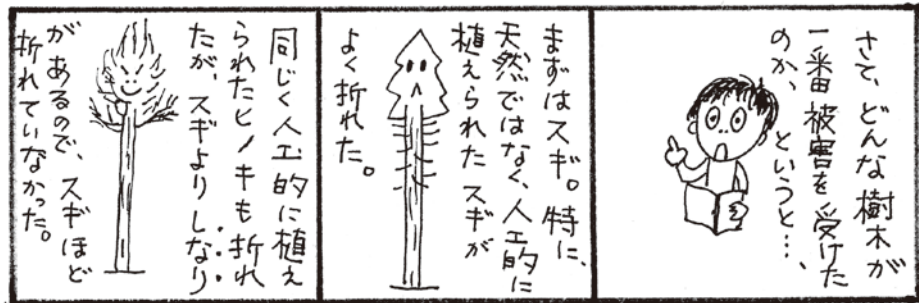
そこに目にした光景は

ああ…
なんてこったい…

遊歩道はメチャメチャ



土がえぐられて穴
になってしまった所
もあった。



さて、どんな樹木が
一番被害を受けた
のか、というところ…



まずはスギ。特に
天然ではなく、人工的に

植えられたスギが

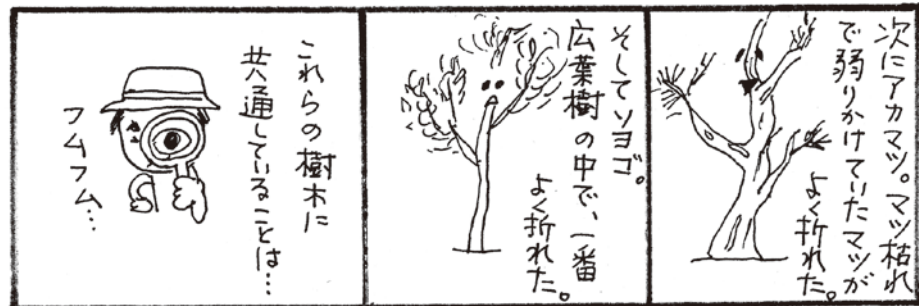


よく折れた。

同じく人工的に植え
られたヒノキも折れ
たが、スギよりしなり



があるので、スギほど
折れていなかった。



次にアカマツ。マツ枯れ
で弱りかけていたマツが
よく折れた。



そしてソヨゴ。

広葉樹の中で、一番
よく折れた。



これらの樹木に

共通していることは…



フムフム…



常緑…つまり
葉を一年中つけている
木であること。



葉がついていると
雪をのせる面積が

広くなる。

おもい



重さに耐えきれず
折れてしまったわけ。

もうダメ…

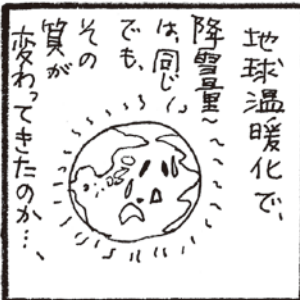


昔から朽木は雪が
とても多かった。



なのに、
こんなひどい林に
なるなんて
初めて。

という。



地球温暖化で
降雪量〜は同じ

でも、その

質が

変わってきたのか…



人が山の手入れをしな
くなったから、



爆発的に増えたシカ
が、下草を食べつくし、



草や低木の生えない
林の木々は根が弱く
なつたのか？



いろいろな原因が考え
られる…。



みなさん、冬は
寒くて冷たいもので
す、寒くて待ちま
しよう。



今年の冬は
ぐーっと冷えま
しように！

● オノミユキ(本名加藤みゆき)1974年生まれ。滋賀県赤旗町育ち。
1997年に朽木村(現高島市)に移住。朽木の自然・行事・人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は2人の子どもを子育て中。

自分づくりに挑戦しよう

その二

井上 昌幸



これまでも述べてきましたが、私たちは自分を成長させるために、良き師を持つことが大切です。身近な人で尊敬できる方が居れば、その人の行動や考え方を見習って自分を磨くことができるでしょう。それができない場合は、古今東西の先賢から学ぶ方法があります。例えば、孔子さん、王陽明、中江藤樹先生、安岡正篤先生などの著書を読むことです。

また、中国の「四書五経」と言われる古典なども私たちに多くのことを教えてくれます。今回はそのような書物から私たちが学んでおきたい言葉などを取り上げていきたいと思います。

子曰く、学びて時に之を習う、亦説はしからずや。朋有り遠方より来る、亦樂しからずや。人知らずして慍みず、亦君子ならずや。(論語・学而第一)

これは「論語」の最初の言葉であり、孔子さんの深い思いが込められています。

○先賢の道を学んで、終始心にかけて練習することは、少しずつ理解が深まりうれしいことだ。

習うという字は羽が白いと書かれており、小鳥が巣から離れるために羽を広げて何回も飛び立つ練習をしている姿であると言われていますが、繰り返しすることが脳細胞を活性化することになるのです。

よく「継続は力なり」と言われますが、「これは大切である」と思ったことは是非続けてほしいものです。

○同好の仲間が遠くから訪ねてきて、心置きなく話ができるのは楽しいものである。

私は彦根で「東洋古典」の勉強会を十年ほど続けていますが、時々三重県から三時間もかけて参加する人もいます。安曇川から二時間もかけて来られる人もいます。枚方市から参加した人もいます。実に有り難く、楽しい気持ちになります。○人が自分を評価してくれないが、そのことに腹を立てないで不平不満の心を持たないことは人格者じゃなからうか。

これは孔子さんが多くの国を尋ねたが、受け入れてもらえなかった心情を吐露しているように思えますが、私たちの日常の中でもよくあることです。孔子さんは多くの弟子を指導して、二千五百年後に聖人と言われるような人格を身に付けられたのではないかと思われれます。

私の手元に旧住友本社の役員をされていた田中良雄氏が書かれた「私の願」という含蓄のある詩があります。

私の願

一隅を照らすもので

私はありたい

私のうけもつ一隅が

どんなにいいいみじめな

はかないものであっても

わるびれず

ひるまず

いつもほのかに

照らして行きたい

孔子さんは恐らくこのような気持で人間教育に生涯をかけたのではないでしょうか。

私たちがどのようなさきやかなことでも、「一隅を照らす」ように努力していききたいものです。

子曰く、吾十有五にして学を志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず。（論語・為政第二）

この文章は孔子さんが自分の生涯を振り返って話された内容です。

○十五歳で「志学」、学を志し、三十歳で「而立」、自立して、四十歳で「不惑」、自分の進むべき道に迷いがなくなり、五十歳で「知命」、自分にどのような素質や能力があるかがわかり、六十歳で「耳順」、人からどのような話を聞いても腹の立つようなことはなくなり、七十歳で自分の思うように行動しても道德的規範からはずれするようなことはなかったのでしょう。

この言葉は日本でも古くからよく使われていますが、今の自分と比べてみて、自分に足りないものを見直すことも大切ではないかと思えます。

井上昌幸

●いのうえ まさゆき 1940年1月1日生まれ。現在、滋賀県農業種交流連合会会長、STEP21(滋賀県シニアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合)専務理事、関西師友協会連合学塾講師、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素菜会代表世話人

近代経営への芽生え

—近江商人の妻の役割—

末永 國紀

近江商人の妻という場合、象徴する道具は砧いしであろう。砧は麻や木綿などの目の粗い織物を、堅いケヤキなどの木の台の上に置いて木槌で打って、柔らかくしたり光沢を出したりするため



砧を打っているところ『近江商人事績写真帖』

に使う道具である。砧を打つことは、古来女性の夜鍋仕事であった。今となつては、見かけることもない道具であり、聴くこともできない音であるが、俳句では秋の季語となっている。

秋の夜長に響く「トコトン、トコトン」の哀愁をともなつた音は、長い旅に出た夫の身を案じつつ孤閨を守る妻の「想夫恋」であった。

近江商人の妻は、多忙であり、重要な役目を負っていた。子供の養育から入店した奉公人の世話、出店への食品・衣料品・寝具等の発送など、行商や出店巡りの夫の留守宅を預かるために、家政全般を取り仕切った。ときには、奉公中に不始末をし出かし、一旦は解雇を通告されて帰郷した奉公人を訓戒し、更生させ、再勤務を仲介する場合もあった。また、一般の家庭の子女を預かって一人前の女性に教育するため、汐踏しほふみみと称される嫁入り前の短期間の行儀見習いの指導を受け持つこともあった。

妻の役割を、総合商社伊藤忠・丸紅の基礎を築いた初代伊藤忠兵衛の妻、八重の例で見よう。犬上郡四十九院村の藤野惣左衛門の長女として、嘉永二年（一八四九）十一月四日に生れた八重（幼名、幸）は、慶応二年（一八六六）に一五歳で近村の犬上郡八目村はちめの持下り商の忠兵衛に嫁いだ。

八重は、ずっと本宅を守っていたので、その仕事は多岐にわたった。大阪の outlet で使う米・麦の仕入と精白、味噌の製造、沢庵・梅干の漬込み、茶・たばこの選定と、これら物品の outlet への発送も担当した。夏冬には、大勢いる店の丁稚への襦袢・帯・前掛けの選定と仕立て、夏季の布団の洗濯、綿の打ち換え、仕立て直し等、年中多忙な日々を過ごした。

体付きは、当時の夫人としては大柄で、強健であり、性格は清純で強い意志力を持ち、浄土真宗の篤い信者であった。教育としては、寺子屋での読み・書き・算盤を習ったのみであったが、算用数字（0・1・2・3）の書き方と計算を夫の忠兵衛から習得し、よくハガキを書いたそうである。昭和二七年四月二十九日に一〇三歳で亡くなったが、没する前年に表敬訪問した県知事を接待した際は、もてなしの道具類一切を蔵から出す手順を指示するなど、晩年まで意識明瞭であり、五〇歳台にも成った息子の二代目忠兵衛を叱正する気丈さもあつた。

ところで、一般に妻の方が長命の場合

が多いので、夫亡き後の妻の役目で大きかったのは、後継者の育成である。近江八幡に、西谷善九郎という商家があつた。この西谷家には、寛政元年（1789）に若主人としてはじめて山形の outlet に出張する西谷善蔵へ宛てた、情理を尽した母親の訓戒文が遺っている。

一朝起きし、かりそめにも戯言を言わず、大酒・大食・色欲を慎み、身持ちを正しくして、店の手本となること。

一 幼い奉公人のうちで心得違いの者がいれば、人に知られぬように密かに意見を加え、善行の者がいれば、皆に公表して褒美を与えるようにすること。年かきの先輩店員が、若主人の自分に意見をしてきた場合は、早速聞き入れること。何事にも堪忍を、専一にして、物腰や物言いを柔和に、腹立ち紛れに顔色や言葉を荒立ててはならない。

一 店の管理のことで、行届かないことがあつても、表沙汰にせず、一旦帰郷後に相談役と図つてから、あらため

て指図を下すこと。

このように近江商人の妻は、留守を預かる主婦や子供の母であること以上に、事業のパートナーであつたのである。二〇〇年以上の社歴のある老舗企業が、日本には三〇〇社強あり、世界の四割を占めている。江戸時代の商家経営のうちに近代経営への芽生えがあつたからであり、転身を可能としたのは代々の日本女性の献身であつた。

近江商人に学べ 末永國紀

●すえながくにとし11943年生れ。
同志社大学経済学部教授。経済学博士。
(財)近江商人郷土館館長。
著書『近代近江商人経営史論』(有斐閣)、『近江商人』(中公新書)、『近江商人学入門』(サンライズ出版)

絆

畑 裕子



イラスト：徳永 拓美

犬の散歩は出無精の私に様々な出会いをもたらせてくれる。たかだか四十分あまりの時間帯であるが、夕方近くになると五百戸ばかりの団地から伸びる散歩道にはウオーキングや犬を連れた住人たちの姿が見られるようになる。最近

は挨拶は交わしても名前を知らない人が増えてきた。若い人だけでなく同世代や先輩の人にも新顔が現れ、リタイア組かなと、思ったりする。

「こんにちは」と声をかけた後、命の膨らみを大切そうに抱えるように歩く未来のママ。数カ月もすれば赤ちゃんの誕生となるだろう。若いママの喜びと戸惑いに思いを馳せ、頬を緩めていると、「わんわん」という愛らしい幼子の声が耳に入ってきた。先日も出会った赤ちゃんを抱っこしたママと坊やである。「わんわん好き」と声をかけるとうなずきにつこりする。生後四ヶ月という赤ちゃんは笑顔が愛らしく、ママの顔は誇

らしい。我が家の犬スズに手をなめられた坊やは一瞬、緊張したようだったが、たちまち頬が緩んだ。

「よいおにいちちゃんだね」

私の笑みに坊やはうれしそうに手を振り、先を歩きだした。

親子三人を見送っているうちに、先ほどの身重の女性の姿がその延長線上に繋がってきた。命の芽生えはやがこの世に産声を上げ、先ほどの親子のように強い絆で結ばれていくのだろうか。私はしみじみと尊い気持ちに包まれていった。名前も知らない人たち、だが、私たちは同じ団地の住人として間違はなく繋がっている。それは緩い絆ではあるが、私の気持ちを仄かにさせてくれたことは確かである。

あの坊やは家族の絆を強めながらやがて幼稚園児、小学生、中学生とすでに成長し、いくつもの絆を結んでいくことだろう。思春期には「ママとなんか出かけたくない」とにきびづらの声変わりをした声で絆を突っぱね、弱めようとするかもしれない。『緩やか

な絆』という大江健三郎氏の著書があったが、家族は強い絆や緩い絆を繰り返しながら絆というものを切つても切れないものにしていくのかもしれない。

ところが、切れっぱなしの絆も少ない。悲しい事件を思い起こしながら私はいつしか大変気持のよい親子との出会いを甦らせていた。食と農を明日へつなぐ湖西の高島市、「針江のんきいふあーむ」の石津さん父子である。

今も湧き水とともに暮らす生水の郷、針江地区で農業、化学肥料を一切使用しないで米作りをしている人である。

ご子息は大阪で会社員の経験がある二十八歳の好青年である。日焼けした鋼鉄の膚をした息子のかたわらで父、石津さんは「ゆりかご水田」について説明する。昔は琵琶湖の周りの田んぼに琵琶湖から水路を通って上つてきたニゴロブナなどが産卵した。が、今は田んぼと水路に段差ができ、魚の道が断たれてしまったために魚が遡上できなくなり、ニゴロブナは絶滅の危機にあるという。そのため川から田んぼに魚道を

しつらえ、魚にも人にもやさしい田んぼ作りを目指している。魚道を見つめながら「初夏にはフナやナマスが田んぼに産卵にやつてきます」と石津さん。田んぼで育った稚魚は琵琶湖へ下り、成長し親となつて再び田んぼへ戻ってくる。

周囲には青々とした水田が広がったくさんの目に見えない生き物たちのひそやかな息づかいが感じられそうである。やがてホタルが飛び交い、幻想的な光と闇の絵巻を展開することだろう。ほーほー、ほたるこい、あつちの水はからいぞ、こつちの水はあまいぞ……。

先人から預かった恵まれた自然環境を未来の子どもたちに繋げていきたい、石津さんの思いは見事に子らへと伝わり、環境に負荷をかけない持続可能な農業は高島の地から全国の人々へと広がりがつつある。

人間は一人で生まれ、一人で死んでいく。が、その過程は種々の絆で結びついている。その絆が断ち切られれば人も魚も問題を生じるのだらう。

畑裕子

●はた ゆつこ 1948年京都府生まれ。奈良女子大学文学部国文科卒業、京都で国語教師を勤める。その後、滋賀県に転居。1993年・第5回朝日新人文学賞受賞、1994年・第14回地上文学賞受賞、滋賀県文化奨励賞受賞。主な著書「画・変幻」「近江百人一首を歩く」「椰子の家」「近江戦国の女たち」など。日本ペンクラブ会員。

徳永拓美

●とくなが ひろみ 1949年生まれ。日本画を学び、日春展、京展、新興展、滋賀県展に入選を経て挿絵も描く。「いぶきのやさぶらう」(京都新聞社)、「守山の野鳥ガイドブック」(守山市立教育研究所)、「甲賀のむかし話」(サンライズ出版)、「イルカをおそった黒い波」(汐文社)など。レイカティア大学「手作り紙芝居講座」講師。

〈MOH-ECOTOURISM-12〉

ジオパークへの招待

檀上 俊雄

ジオグラフィックライター

私はジオパークに注目している。世界遺産が次世代に伝えることを目的とするのに対して、ジオパークは自然遺産、具体的には地層、岩石、地形、火山、断層などを含む自然豊かな地域を対象として、教育や科学の普及に役立つつつ積極的に地域活性化に活用することにポイントが置かれているからだ。世界ジオパークネットワークは2004年にユネスコの支援のもとで設立された。2008年6月のドイツ・オスナブルクで開かれたユネスコ国際ジオパーク会議において、特に地質的な自然災害に対する防災意識を高める為にジオパークが有効、と認められ取り組みが強化された。こうして登録済みの世界ジオパークは18の国で57の場所に及んでいる。

これに対応して日本ジオパーク委員会は2008年に、多くの候補地のなかからアポイ岳、洞爺湖有珠山、糸魚川、南アルプス、山陰海岸、室戸、島原半島を日本ジオパークとして認定し、昭和新山の活動で知られる洞爺湖有珠山、フォッサマグナの糸魚川、大噴火した雲仙岳火山のある島原半島を世界ジオパークネットワークに申請している。

火山国にふさわしい顔ぶれであるが、地殻変動に伴って火山活動は起ることから、私はフォッサマグナの一角にある糸魚川エリアに特に注目している。糸魚川は糸魚川静岡構造線や、姫川の河原や親不知の海岸に流れ出るヒスイで昔から知られるが、東西南北日本の接点にあたる場所であり、各年代の地層が入り混じり、列島形成の生い立ちを知る場所にふさわしい。ここに聳える名山雨飾山の、石仏が並ぶ山頂に立てば、ジオパーク糸魚川が一望できる。

その一方で、リストにあつてしかるべき琵琶湖がないのは寂しいかぎりだ。地元の具体的な取り組みがないからだろうか。400万年という湖としては



山頂には石仏が並び、昔からの信仰登山が盛んであったことがわかる。地図や航空写真のない時代において地域の名山に登ることは、水源の森の自然に親しみ自らの住む場所を俯瞰し、地域の成り立ちや自然環境を知る貴重な手だてであった。ほんとうの自然は山地にかるうじて残る日本において、登山の効用は現代も変わることはない。雨飾山は、深田久弥の「日本百名山」にも選ばれている。

雨飾山山頂から糸魚川エリアを見下ろす。流れ出る川は姫川で、長野県白馬村佐野坂を水源とする。左岸は白馬連峰、右岸にこの山が聳え立つ。フォッサマグナは大きな溝というラテン語で、糸魚川静岡構造線は溝の西側にあたる。東側ははつきりしながら、その間は6000mほど沈み込んでいてその割れ目から富士山、八ヶ岳、妙高山などの多くの火山が噴出してゐる。



世界有数の長い歴史を誇り、日本列島が概ね今日の姿になった年代にもあたり、琵琶湖を深く知ることは糸魚川同様日本列島全体を知ることにつながる大切な場所であるからだ。範囲が広すぎるのであれば、ダイナミックな自然の生い立ちと、京の都と日本海を結ぶ動脈の重要な中継地としての歴史を持つ湖西に限ってもいいと思う。

湖西には琵琶湖西岸断層が走っている。約400年前の甚大な被害を被った寛永の大震災以降大きな活動がないことから、地下に大きな歪みが蓄積されていて何時大地震が起つてもおかしくないといわれている。日本海側と太平洋側を区切る中央分水嶺でもある水源地帯の山から湖畔まで、湖西全体の地形がどう形成されたか、これを歴史はどう活かしたか興味は尽きない。

自然を知るには春夏秋冬、親しむことに尽きると私は思っている。旅の効用は世間を知ることにある、と昔からいわれてきた。私たちは現地へ足を運び、自然の恵みを楽しみ、旅を大いに楽しみ、自然の仕組みや災害を乗り越えた英知を真剣に学び、伝える必要があると思う。こうした動きが広がり、受け入れ側も自然遺産を地元の誇りとして大切に活用するようになれば、その場所は観光地として成立することとなり、地域の活性化に寄与することになる。

こうしたことからジオパークは、環境の時代にふさわしい健やかな暮らしを支える逞しい自然観を生み出す大きな力になると予想される。

檀上俊雄

● だんじょう としお 1951年広島県尾道市生まれ。立命館大学文学部地理学科卒。山と自然研究会青山舎代表。日本旅のベンチクラブ会員。
 著書『比良山・湖西の山』（山と溪谷社 共著）



ようやく三合目に到着。小休止

環人会ツアーVol.9

幻のヒメボタルに出逢う旅 伊吹山夜間登山2009

- ◆日 時／2009年7月11日(土)19時～12日(日)10時
- ◆場 所／伊吹山(米原市)
- ◆集 合／米原駅東口
- ◆参 加／7名(うち1名 1合目で棄権)
- ◆案内人／米原市役所経済環境部環境保全課
三輪直之(近江環人2期生)



ユウスゲ群落。伊吹山を望んで

▲みんなが楽しい伊吹山

滋賀県で一番高い標高1,377mの伊吹山。皆さん、登ったことがありますか？

「ドライブウェイで山頂まで行ったことがあるけど、登ったことはないなあ」なんて人も多いはず。かくいう僕も、恥ずかしながらふもとから登ったことはありませんでした。

今回の環人会ツアーの舞台は米原市で、伊吹山夜間登山にチャレンジしました。

この登山は、地元米原市上野区と伊吹山観光振興会、そして市役所の若手職員が関わっている「みんなが楽しい伊吹山プロジェクト」が実施したものです。環人会では、このイベントに乗っかって、おいしいところだけをいただくました。

▲花火もみえた

前日まではぐずついた天候で、開催自体が危ぶまれていたのですが、当日は何とか天気が持ち直しました。

夜間登山ということ、ふもとの三之宮神社を午後7時にスタートし、真っ暗な闇の中を、懐中電灯やヘッドランプで足下を照らしながら、行列の最後尾でのんびりと登り始めました。

とはいっても、夜の林道の中は非常に蒸し暑く、日頃の運動不足もあって、3合目に到着するまでにかなりの体力を消耗していました（体調不良で1名がリタイヤ。残念無念）。3合目では、ポランティアガイドによる解説のもと、ライトアップされたユウスゲの花々を観察し、ひとときの休憩の後に、再び山頂を目指します。

途中、ふもとを振り返ると、米原と長浜の夜景が綺麗に見えました。また当日は高宮の花火大会だったので、彦根方面で打ち上げられた花火が小さく見えました。離れた所から見る花火もなかなか趣があつて良いねなどと話しながら淡々と登っていきます。

▲ヒメボタルがチカッチカッ

さて、今回の登山の目的は、幻と言われている「ヒメボタル」を見ること。

川のない伊吹山山頂にどうしてホタルがいるのか？皆さんは不思議に思われるのではないのでしょうか。実は伊吹山の朝晩の湿気が川の役割を果たしているのだそうです。また、山頂にはホタルのえさとなるカワニナ（貝）はいませんが、ヒメボタルの幼虫はカタツムリ（ー）を食べて大きくなるのだそうです。

急傾斜を登りへ口へ口になりながら、一同がやっとたどり着いた8合目で、そんなヒメボタルの乱舞している場に遭遇することができました！

ヒメボタルの光の点灯スピードは、湖北で見られるゲンジボタルやハイケボタルに比べて点滅が早く、乱舞している姿は、あちらこちらでフラッシュがたかかっている感じです。音にすると、チカッチカッって感じですよ。

幻のヒメボタルを見ることができた幸運を噛みしめながら、一同はホタルの光に元気をもらって、なんとか山頂までたどり着くことができました。時計の針はすでに0時を回っていて、疲れ果てた一同は、山小屋で仮眠を取りました。



頂上にて、朝のご来光を待つ一行



山頂にあった化石



ヒメボタルの好物カタツムリ



山頂でみた、ヒメボタルの乱舞

▲ご来光は残念…

翌日は、日の出前に起きて、ご来光を待ちましたが、残念ながら曇り空のため見ることはできませんでした。

早朝5時に下山を開始して、思うように動かない曲がらない足と、筋肉痛と格闘しながら、3合目まで下り、スタップの皆さんが用意してくれたおいしい豚汁とおにぎりを食べました（もちろんマイ箸と



朝5時下山。朝食が待つ3合目をめざす



3合目のユウスゲを背景に記念写真



7合目～8合目付近

マイお腕持参です)。そのお
いしさは格別でした。
ふもとに下りてきたのは、
午前9時過ぎ。参加者に振る
舞われた伊吹そばを食べなが
ら、お互いの奮闘を讃え合
いました。

▲みんなも登ろうぜ！

今回の環人会ツアーは体育
会系で、言い出しっぺの僕に
とっても体力的に厳しいもの
でしたが、いつもふもとから
眺めているだけの伊吹山の豊
かな自然に、身を持って触れ
ることができた良い機会でし
た。これからは自信を持って、
「伊吹山に登ったことあるぜ
っ！」と言えます。参加され
た皆さん、スタッフの皆さん
大変お疲れ様でした。

「秋の夜長を楽しむ夕べ」

素敵な旅行作家、西本柎枝さんの元気になるおはなし…
セラピーロードを歩いて森林の魅力を感じる…
千年椿の湧き水珈琲を飲みながら、旅、森、水について語る…
山里料理で心も身体も健康に…
秋の夜長をジャズの音色で心地よく過ごす…
こんな一日を「くつきの森」で過ごしませんか。
みなさんのお越しをお待ちしております。

日時	平成21年10月3日(土) 13:00~20:30	
場所	滋賀県高島市朽木麻生443 森林公園「くつきの森」やまね館	
日程	I部 開会	13:00
	講演	「旅が教えてくれたもの 風・土・光 そして水」 13:15
		講師:西本柎枝氏(旅行作家)
	散策	西本先生とくつきの森内セラピーロードを歩きます。 14:45
	座談会	千年椿の湧き水珈琲を味わいながらの意見交換会です。 16:15
	閉会	17:15
II部	開会	18:00
		「むつみ会の朽木山里料理夕食会」 朽木のおばちゃんたちの心のこもったお料理(バイキング形式) を、プロのジャズ演奏を聴きながらお楽しみ下さい。 ライブ演奏:小野みどり 他
	閉会	20:00

参加費 I部 500円(千年椿の湧き水珈琲付き) II部 2,500円(夕食代込み)
※申し訳ありませんが、会員割引はございません。

定員 100名(定員になり次第、締め切らせていただきます)

申し込み締め切り 9月25日(金)

お申し込み方法 申込用紙にご記入の上、郵便、FAX、メールのいずれかでお申し込み下さい。

お申し込み・
お問い合わせ先

NPO法人 麻生里山センター
〒520-1451 滋賀県高島市朽木麻生443番地
TEL.0740-38-8099 FAX.0740-38-8012
Eメール asosatoyama@zb.ztv.ne.jp
URL 「森林公園 くつきの森」で検索

[主催] NPO法人 麻生里山センター
[協賛] MOH通信・高島森林体験学校

第三回 EPR部会 シンポジウム 「石油ピーク後の変革のキーワードEPR」

日本がエネルギー自給率を高めるための対応の原点は、人材ともったいない精神と技術である。エネルギー収支比(EPR)は「エネルギーの質」「全体最適化」を検討する有力なツールである。EPRは採掘、輸送、精製など取り出すところから使うところまで全体を考え、エネルギーの多くかかるところを重点的に研究開発することで、全体にかかるエネルギーを下げるができる。石油、天然ガスだけではなく、食料、輸送、バイオマス、工場製品、リサイクルなど、EPRはほぼ全分野に適用でき、日本の変革を支援できる。今後を予見し、認識し、試みて、解決策を見いだすことが国の政治、地方自治体、大学、企業にそれぞれ求められる。

日時 平成21年9月15日(火) 13:00~17:00(12:30開場、受付開始)

場所 東京大学 山上会館
(http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_02_i.html)

参加費 会員2000円、非会員3000円、学生1000円(8月1日以降当日までの申込)
※事前登録で当日欠席された場合は後日お支払いください。
懇親会(17:15より)3000円、ポスター展示 10,000円

内容 ●各大学のEPR取り組み紹介

●EPRの求め方と評価事例

EPRの求め方と典型的な事例／EPR部会長 天野 治
輸送関係のEPR(新幹線から自転車まで)／東大 松島 潤
太陽利用のEPRとマネーベイバックタイム／NTT 石川 宏
バイオマス(特に木質系)の統合的利用／北大 大崎 満、田中 数幸、辻 宣行、
佐藤 寿樹、土屋 陽子、天野 治

●EPR的視点で石油ピーク後に備える

石油ピーク後の世界、日本はどう備える／もったいない学会会長 石井 吉徳
自転車を輸送のコアに(各地の良好事例)／小林 理事長、加藤 文子
食料自給率／熊谷病院 福島 陽子
閉会の挨拶／MOTHY 加藤 文子

※シンポジウム参加者には、EPR評価方法と評価事例集(EPR部会2009年版テキスト、定価2000円)を無料で配布します。木質ペレットのEPRも記載されています。

申し込み締め切り 9月12日

お申し込み方法

E-Mailにて“9.15シンポ参加”とお申し込み下さい。
親睦会参加の有無もお知らせ下さい。

**お申し込み・
お問い合わせ先**

NPO法人 もったいない学会
HP <http://www.mottainaisociety.org/index.html>
Eメール epr-guest@mottainaisociety.org

[主催]もったいない学会 EPR部会

[後援]日本工学アカデミー人類未来戦略フォーラム、東京大学大学院工学系研究科、北海道大学大学院工学系研究科、九州大学大学院工学系研究科エネルギー量子工学部門、東京工業大学原子力工学研究所、京都大学大学院工学系研究科、福井大学学生連絡会、MOH通信

清く正しく美しく

今関 信子



イラスト：千田満

「この頃『清く正しく美しく』を描くことが、難かしくなった。」と聞いたのは、もう30年近く前のことになる。「世の中なんだかおかしいぞ」と感じて、丘修三をペンネームにした児童文学者の発言だ。あの時、私は、いつか、きっと、子どもたちに「清く正しく美しく」は、素敵なことだと感じてもらえる作品を手渡したいと思った。物ばかりに目が行く社会を、「おかしい」と思ったのだ。

そして、2008年、有城さんに会った。

有城さんは、京都府警のお巡りさんだ。正確には、お巡りさんだった。現在、おつれあいの靖子さんと、近江八幡市に住んでいる。

有城さんは、150匹ほどの動物たちがいる「110番動物園」の園長だ。ウサギ、モルモット、アヒル、オウム、カメ、ネコ、ニワトリ、タヌキ、アライグマ、イグアナ、フェレット……、身近な小さな動物たちが多い。

この動物たちを連れて、保育園や幼稚

園、小学校や地域の祭りなどに出かけていく。「110番動物園」は、お巡りさんの移動動物園なのだ。

「110番動物園」へやってきた子どもたちに、有城さんが必ず頼むことがある。

「110番って聞いたら、みんなは、まず何を思い浮かべる？ 警察やね。」

「困ったことがあったら、助けてもらうんや。」

「ここにいる動物たちも、困ったことになったんや。あのネコ、脛が接着剤でくっつけられてしまって、開かなくなったんや。ウサギの耳、半分ないやろ。誰かに切られてしもた。」

有城さんは、動物たちの困った時を、様子を、子どもたちに話して、そして言う。

「これから遊んでもらうけど、動物たちに優しくしてほしい。そして、みんなは、動物たちにも友だちにも、いやることはせんといてほしいんや。」

有城さんは、これらの動物を、靖子さ

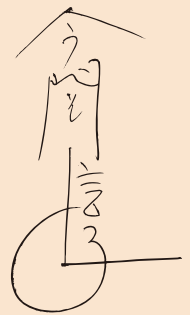
んと二人で世話してきた。エサ代のため、有城さんの給料のほとんどがつき込まれたこともあったから、靖子さんがパートで働いて、家計を支えたこともあった。現在も、年金が使われるという。

彼は多くを持っていない。身なりは質素だ。

退職金をはたいて作った常設の動物園にくっついた家は簡素だ。

有城さんは、自分を物で豊かにしようと思っていない。廃材を利用して小屋を建て、囲いを作る。一日も休みなくもらいに来るからと約束して、スパーから出る野菜くずをもらう。動物たちの糞尿を大地に返し、実の生る木を植えている。

有城さんは、自説を演説しない。たんたとやる。援助を当てにしない。自分の持っているものを生かして、隣に生きる命のために、当たり前でないことをするのが、彼の日常になっているのだ。



●いまぜき のぶこ11942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。『さよならの日のねずみ花火』1995 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で「寺子屋」づくり」2003 PHP研究所 など多数

M. Senda

●せんだ みつる11950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオオアビロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパース・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告・エディトリアルを中心に活動中。

講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。2009年5月～8月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

- おやじのたまり場くセカンドライフサロンく
日時：5月28日
主催：おやじのたまり場く
- 会場：大津市ボランティアセンター
対象：会員
- 演題：循環型社会をめざす
- 会場：大津市民活動センター
参加：40名
講師：辻村琴美
- びわ湖の宝発見ツアー
日時：6月9日
主催：執筆者懇談会

- 対象：MOH通信関係者
- 演題：湖と山をめぐる会場：環境船・めぐみにて大津く泰山寺
参加：18名
とつておきのお話：今関信子、海東英和
- ダイキン工業組合女性フォーラム
日時：7月4日
主催：ダイキン工業労働組合
- 対象：同社の女性組合員
- 演題：ワークライフバランス 育児と仕事について
会場：草津市コミュニケーションセンター
参加：40名
講師：辻村琴美
- JAM京滋滋賀県女性協議会研修会
日時：7月12日
主催：JAM京滋滋賀女性協議会

- 対象：JAM京滋滋賀女性協議会構成組合
- 演題：ワークライフバランス「育児と仕事」
会場：野洲市コミュニケーションセンター
参加：30名
講師：辻村琴美
- 湖北経友会例会
日時：7月9日
主催：滋賀銀行経友会
対象：会員
- 演題：住民の願いを叶える地域医療
会場：北ビワコホテルグラツツイエ
参加：30名
講師：畑野秀樹
- Eネット例会
日時：7月22日



- 主催：Eネット
対象：会員
- 演題：低炭素社会における経営者の役割
会場：
参加：30名
講師：森建司
- 近江環人
日時：7月25日
主催：滋賀県立大学地域再生学座
対象：受講生
- 演題：模擬試験対策講座
会場：滋賀県立大学
参加：18名
講師：田中光一、辻村琴美
- 第4回
地域再生フォーラム
日時：8月1日
主催：滋賀県立大学地域づくり教育研究センター
対象：一般
- 演題：新たな観光創造による滋賀の再生く

- 湖・里・森をつなぐく
会場：ビアンカ船上
参加：80名
- 元気な企業の研究く
聞き取り調査
日時：8月11日
主催：山城経営研究所
KAE第45期経営道フォーラム
- 対象：新江州、MOH通信、eプラザ
- 演題：今どき元気な企業はなぜ元気なのか？く
元気な企業の社員に共通する行動様式とは？
会場：新江州
参加：6名
講師：森建司



M・O・Hお知らせ

一姓×雨振野 野菜即売会

- テーマ／枝豆、スモモ、坊ちゃんカボチャなど
- 日時／9月30日
12:10～13:10、17:00～18:30
- 場所／滋賀県立大学食堂 エントランス
- 主催・問い合わせ／一姓プロジェクト野菜販売担当
☎090-3996-3288

第6回全国菜の花学会・ 楽会in東近江

- テーマ／地域自律の資源循環型社会づくり
- 日時／10月3日、4日
- 場所／東近江市愛東福祉センターじゅびあ周辺
- 内容／「BDFで世界を回る」山田周生氏講演、「農のある暮らし」大津愛梨氏（九州バイオマスフォーラム理事）、Yae氏（ミュージシャン）、農家民宿
- 主催・問い合わせ／実行委員会、東近江市あいとうエコプラザ菜の花館内
☎0749-46-8100
<http://www.city.higashiomi.shiga.jp/nanohanakan/>

やまんばの森 森林療養セミナー

- テーマ／森の観察と手入れ＆講演「心地よいと感じることは治療につながる」
- 日時／10月10日10:00～
- 場所／やまんばの森（米原市日光寺東溜自然公園奥）、講演は近江はにわ館かたりペホール（近江図書館隣）
- 内容／森の観察と手入れは長袖、長ズボン、運動靴を着用。昼食・飲み物持参。講師は黒丸尊治氏（彦根市立病院緩和ケア科部長）
- 参加費／1000円
- 主催・問い合わせ／NPOやまんばの会

☎090-9629-5548

E-mail:yamanbanokai@hotmail.com

栗東市生涯学習の まちづくり講座

- テーマ／「MもったいないOおかげさま Hほどほどにが地域を元気にする!」
- 日時／①10月1日(木) 19:30～21:00コミュニティセンター金勝 ②10月17日(土) 19:30～21:00コミュニティセンター大宝東 ③10月30日(金) 19:30～21:00コミュニティセンター葉山東
- 内容／『MOH もったいない・おかげさま・ほどほどに』が環境と人間を育てる実例紹介
- 講師／新江州(株)循環型社会システム研究所・MOH通信編集長 辻村琴美
- 主催・問い合わせ／栗東市教育委員会生涯学習課
☎077-551-0145 担当・片岡

レディース中央会 全国フォーラムin滋賀

- テーマ／葦 良しよし～環境 良し 三方よし 暮らしよし～
- 日時／10月20日
12:00～16:00
- 場所／大津プリンスホテル（大津市におの浜）
- 内容／びわ湖の漁師・戸田直弘氏講演「葦 良し よし びわ湖と環境」
- 主催・問い合わせ／全国中小企業団体中央会
☎03-3523-4908
<http://www.chuokai.or.jp/>

ペーパーワールドを出展

- テーマ／びわ湖環境ビジネスメッセ出展
- 日時／10月21～23日
- 会場／長浜ドーム
- 内容／新江州がお届けする紙と環境のコラボレーション
- 問い合わせ／新江州(株)

☎0749-72-8100

<http://www.shingoshu.co.jp>

グリーン購入フォーラム 2009in滋賀

- テーマ／ミスター70%から学ぶ!「持続可能な社会に向けた産業界の役割とは」
- 日時／10月22日
14:00～16:00
- 会場／北ビワコホテル グラツツィエ
- 講演／国立環境研究所 参与 西岡秀三氏
- 報告／持続可能な滋賀社会ビジョンについて
- 主催・問い合わせ／滋賀グリーン購入ネットワーク事務局
☎077-510-3585
E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp

地域活性化フォーラムin 滋賀

- テーマ／地域の特性を生かした魅力あるまちを目指して
- 日時／10月26日
13:30～16:50
- 会場／長浜文化芸術会館（長浜市大島町）
- 内容／田原総一郎氏による基調講演とパネルディスカッション
- 主催・問い合わせ／(財)地域活性化センター
☎03-5202-6135
<http://www.chiiki-dukuri-hyacka.or.jp/p/>

経営者「環境力大賞」 滋賀シンポジウム

- テーマ／21世紀をリードする経営者とは…
- 日時／11月16日
- 場所／コラボしが3階
- 主催・問い合わせ／NPO法人環境文明21滋賀シンポジウム事務局
☎03-5483-8455
E-mail:info@kanbun.org

伊吹ボタル

三山 元暎



さし絵:中川 善雄

私たちの子どもころの夏休みといえば、もっぱら遊び場は野や山であった。イタドリを折っては口にし、スイバを噛み、クワの実やキイチゴなどをむさぼり食った。野ウサギを捕えたこともあった。そんな日のがいままも忘れられず、近くの山にはよく出かける。恒例になっているのは春の山菜採りと秋のキノコ狩り。夏、伊吹山へヒメボタルを見に行くこともある。

岩に落ち岩なまめかす螢火は

野尻遊星

伊吹山にヒメボタルが出現するのは、七月中旬から八月上旬にかけて。ゲンジボタルやヘイケボタルとは違い水辺には生息しない。カタツムリなどを餌にする陸生のホタルだ。体長は一センチ前後、黄金色の強いフラッシュ光を放つ。

十年ほど前の真夜中、山頂付近で何万匹という無数のヒメボタルが強い光を放ち明滅する光景に出合った。伊吹山の「息吹」を目の当たりに見る思いがして息をのんだ。

以降、これほどまでの大群には出会っていないが、薄明かりのなか、花の王者シシウドと競うがごとく明滅して飛ばさまは、とても幻想的だ。

このほど新聞に「ヒメボタルに新息地、多賀町や東近江市など三〇カ所」という記事が出ていた。これにより県内の生息地は少なくとも三五カ所となることが確認されたという。

でも、息を切らし登って見た伊吹山のホタルは、仲間うちでとりわけ体長が大きく、別格の存在であることには変わらない。

三山 元暎

●みやまもとあき11940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にもない退任。真宗大谷派真勝寺住職。

●なかがわ よしお11936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。

本の紹介

最近入手した、気になる本CD・DVDをご紹介します。

BOOKS

こちら110番動物園



●著者／文今関信子 絵・関ロシユン

●発行／佼成出版社

●価格／1575円

●内容／すてられた命を救うおまわりさん有城覚さんの感動ノンフィクション。

詩集 神明の里



●著者／西本柳枝

●発行／山脈文庫

●価格／2000円

●内容／期待の関秀の新詩集。

古代地方木簡の世紀



●編集・発行／(財)滋賀県文化財保護協会

●価格／1680円

●内容／野洲市西河原遺跡群や西浅井町塩津港遺跡から出土した木簡から紐解かれる、謎と国家の姿。

豊ママのセキララお気楽日記



●著者／豊田令枝

●発行／豊ママ舎

●価格／1000円

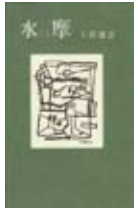
●内容／元エフエム滋賀の名物パティシエ豊田一美氏の奥様がつづるセキララなブログ73篇。

水摩(すいま)

●著者／平賀胤壽

●発行／いりす

●価格／2100円



●価格／2100円

●内容／滋賀文学者の会メンバーである作者が送る渾身の句集。

日本政策金融公庫「調査月報」6月号



●寄稿者／弘中史子

●発行／中小企業リサーチセンター

●価格／435円

●内容／論点多彩「環境経営と中小企業」。実例紹介に新江州株を引用。

SR実践に関する中小企業事例調査



●著者／パブリックリソースセンター

●発行／日本規格協会

●内容／社会貢献を実施する中小企業23例を紹介。

ココナッツピリオド 地球温暖化を防ぐウサギ



●著者／山田玲司

●発行／小学館

●価格／550円

●内容／地球温暖化を題材にしたコミック。ウサギのピリオド博士が地球を救うか？

なぜ女は昇進を拒むのか



●著者／スーザン・ピンカー

●発行／早川書房

●価格／2415円

●内容／鋭い女性心理学者が科学的知見に基づきタブーに切り込む。

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～MOH通信～」を発行する。

《 MOH通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会通念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

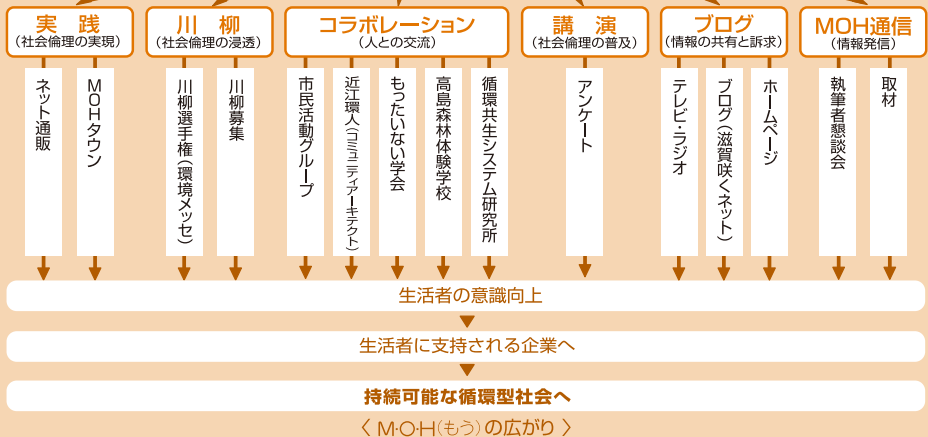
shingoshu.co.jp

代表:森 建司

担当:つじむら ことみ

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

- ★「子を教ふるに言葉少なに身を以って教ふべし、我が身の職分を励み勤べし」(商家の家訓の話第九回)
野洲市 竹村一郎
- ★21号の非電化生活のススメが気になりました。
長浜市 沢田恭子
- ★病気を治すより元氣をつくる医者でありたいと思いました。
福井市 野坂弦司
- ★鍋帽子、ふれあい、自分づくりのページを友人に読んでもらおうと思っています。
平田和子
- ★温室効果ガス削減の先進事例をつくるのが次世代への最大の贈り物です。
大津市 野口陽
- ★大津友の会の記事は弊社ラジオ番組が縁でしょうか。嬉しく思います。小島富佐江さんは私の母校の先生です。懐かしく拝見しました。
KBS京都放送 元林明子
- ★パインの社長さんの信念が参考になりました。
滋賀県企画調整 松田千春
- ★「MOH通信」に出会えたことを幸せに感じ、楽しくうなずき読ませてもらって

- ます。感動をありがとうございます。
川嶋千恵子
- ★パインアメの記事面白かったです。当社も環境保全、社会貢献活動を周年化するのとなりました。
富士セロックス京都 原田浩邦
- ★森会長と対談をさせていただし、面白さを感じていました。これからもよろしく。
滋賀短期大学 板倉安正
- ★「人づくり」特集は心に響くメッセージに満ちています。
2030ビジョンプロジェクト 中山弘
- ★「ものづくりはひとつづくり」を再認識しました。私は「誠実」「謙虚」を忘れずに前に進もうと思っています。
人と組織研究所 高橋貞夫
- ★中井さんの自分の「生」を大切にされていることに驚きました。
ドットラボ 松崎
- ★大津友の会を取り上げていただきありがとうございます。よい家庭を増やそうと社会に働きかける活動を続けてまいります。
大津友の会 丹原敦子
- ★22号から頂きたいです。
ダイキン工業 相澤三千代

MOHせんにゅう

- ★カミサンに大目玉をもらいました。「マジに書いてどうするの」と。MOHの反響の大きさに驚いています。
大津市 中井三雄
- ♪もったいない うたた寝しながらテレビつけ
長浜市 宮崎百合子
- ♪なんとなく 困ったときのMOH通信
長浜みらい産業プラザ
- ♪山は是れ青々、花は是れ紅い
長浜市 高岸秀重
- ♪物あふれ 心いっぺん入ったや
金沢市 池田弘一
- ♪自分には 何ができるか考えよう
滋賀グリーン購入ネットワーク
- ♪いつまでも あると思うな命と金は!
守山市 石田和正
- ♪**中井三雄のせんにゅう三昧**
♪おーいメガネ アラかけてるじゃありませんか
♪パソコみや 人生一度目のあいうえお
♪もう止める
♪煙草じゃないぜ 会社だぜ
♪愛してる 入れ歯をはめて言ってみて

《次号予告》

2009年12月発行予定

■特集:買い物[社会参画]

- 対談/「次代に引き継ぎたいもの」日本生命・宇野会長+森建司
 - インタビュー/「自然が持つ表現力」今森光彦
 - 取材/「宮内庁御用達の漬物屋・創業160年」大津・八百与
 - 取材/「信頼のアウトドアウェア」パタゴニア
 - 取材/「最近これにはまっています」アンケートに見る買い物志向
 - 取材/「地球にやさしいパッケージとは?」パッケージデザイナー 三原美奈子
 - 取材/「栗東・いいもん市」仕掛け人の浦谷氏と手づくり市
 - 取材/「いやしセラピーロード」西本棚江
 - 連載/通常通り
- ※ 敬称略、予告なく変更いたします

●編集後記●

毎日放送のドラマ「最後の赤紙配達人」は感動しました。旧大郷村(現長浜市)の兵事担当者・西邑仁平氏(104才)が軍命にそむいて残した出兵者の記録。戦後64年を経て甦る遺族の悲しみ。顔見知りの方も出演され、見慣れた風景も登場し、身につまされました。かつて湖北の住民は炎から観音像を助けだしたと聴いています。仁平氏も焼失から村民の生きた証を救いました。その慈愛と勇気に敬服します。(ことみ)

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

電話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電

《M・O・H通信》申込書

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のごことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.25(通巻26号) 2009年8月末日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局

代表 森建司
編集長 つじむら ことみ
編集協力 稲垣 重雄
取材 細井 美保
古田 紀子
川本 哲慎
川田 恵理子
三輪 直之
平川 潤

デザイン 伊達デザイン室
写真 辻村写真事務所
印刷 ブランセル
ホームページ ブランセル
ブログ 滋賀・咲くブログ

●執筆者懇談会

内藤 正明 畑 裕子
海東 英和 堤 幸一
山田 朝夫 進 ひろこ
下西 康嗣 中村 誠
末永 國紀 笹山 千怜
花田 眞理子 奥山 武生
弘中 史子 結城 美枝子
今関 信子 松崎 和弘
山崎 隆 井上 昌幸
三山 元暎 辻村 耕司
加藤 みゆき 佐々木 洋一
清水 安治 徳永 拓美
檀上 俊雄 中井 二三雄
中田 エリカ 山口 美知子

(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県 近江環人&環人会
琵琶湖環境科学研究所 もったいない学会
センター 野洲生活学校
循環共生社会S研究所 EEネット
高島森林体験学校 中小企業家同友会
麻生里山センター

(順不同)

●支援

新江州(株)
〒526-0111
滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681
★ブログ 滋賀・咲くブログ★
<http://moh.shiga-saku.net/>
★ホームページ★
<http://www.mohmoh.jp/>

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。